

地域別構想

第6章 地域別構想 ～地域別の協働・共創まちづくりの指針～

地域別構想は、第4章の「将来都市構造・拠点配置」の中で示した「地域レベル（駅勢圏やコミュニティ単位のまちづくり）」の考え方にに基づき、身近な「わがまち」として認識でき、さまざまなコミュニティ活動が展開される範囲として、市域を北西地域、北東地域、南西地域、南東地域の4つに区分し、それぞれの地域の特徴や市民の意向等を踏まえた形でまちづくりを展開していくための計画です。



図 地域別構想の地域区分

地域別構想では、4つの地域で活かしていきたい資源や特徴、取り組んでいくべき課題を整理し、その上で、地域の特性を活かした形で将来像・目標を設定し、その実現に向けた方針、取組を記載しています。

本計画では行政が主となって取り組むものだけでなく、市民が主体となって取り組むものも含めて記載しており、行政と市民、双方がこの地域別構想を共有しながら、協働・共創でまちづくりに取り組んでいく指針となります。

1. 北西地域

(1) 地域の概況

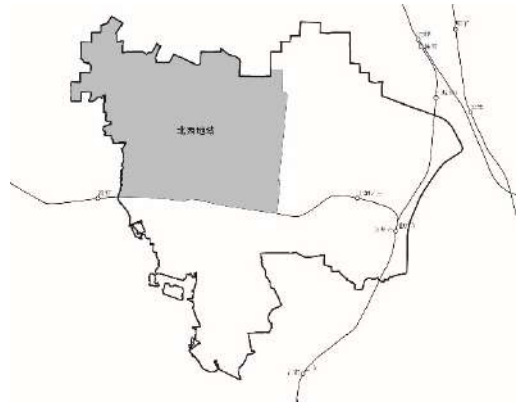
北西地域は、市域を近鉄南大阪線と国道170号(大阪外環状線)で区切り、周囲は八尾市、松原市、羽曳野市に接する地域です。

地域西側を南北に縦断する(都)八尾富田林線の整備が進められています。

藤井寺駅周辺には商業・業務施設等が集積しており、本市の都市拠点となっています。大規模商業施設の整備・立地が進み、さらに周辺への波及効果も見込まれ、一層拠点性が高まることが期待されます。

地域内には、小中学校に加え府立藤井寺高校、藤井寺工科高校が立地するなど学校が多い地域で、また、藤井寺市役所や市民総合会館本館(パープルホール)、図書館、スポーツセンターなど、公共施設も多く立地しています。

歴史文化資源も多く、地区内には長尾街道が通っており、津堂城山古墳や善光寺・産土神社などの歴史資源に恵まれた地域でもあります。津堂城山古墳には、ガイダンス施設「まほらしろやま」が整備されており、世界文化遺産古市古墳群を身近に感じることができる空間となっています。また、比較的ゆとりのある緑豊かな良好な住宅地が形成されている地区もあります。



藤井寺駅前



大規模商業施設



市民総合会館本館 (パープルホール)



ふじみ緑地

①人口・世帯数の推移

- ・人口・世帯数ともに、平成 12（2000）年～平成 22（2010）年まで増加傾向にあります
が、以降の人口は減少しています。人口よりも世帯数の増加率が高くなっていることから、核家族化が進んでいると考えられます。
- ・全市と比較すると、平成 22（2010）年までの人口増加は顕著ですが、以降は全市に比べて人口が減少しています。
- ・年齢別の人口構成については、全市に比べやや 65 歳以上の人口割合が低く、15～64 歳の人口割合が高くなっています。

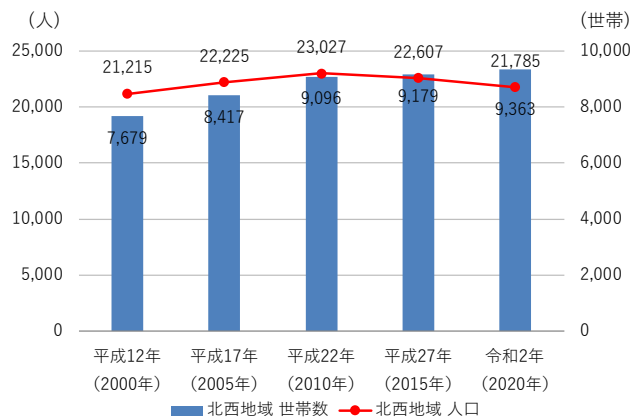


図 人口・世帯数の推移 出典：国勢調査

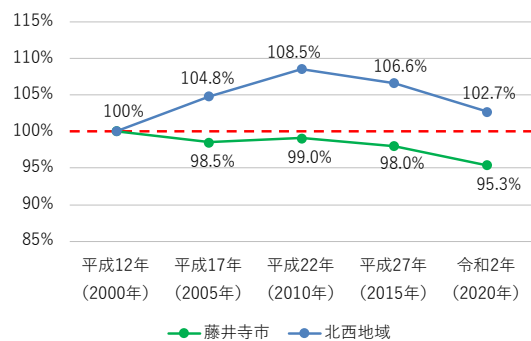


図 人口の推移（全市との比較）
出典：国勢調査

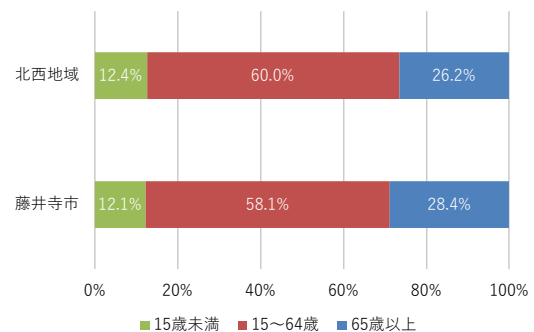


図 年齢別人口構成（令和2（2020）年）
出典：国勢調査

注：年齢不詳を省いているため合計が100%にならない

ア 地域の定住意向

- ・地域に住み続けたいという人が 47.4%で最も多く、全市とほぼ同様の割合となっています。

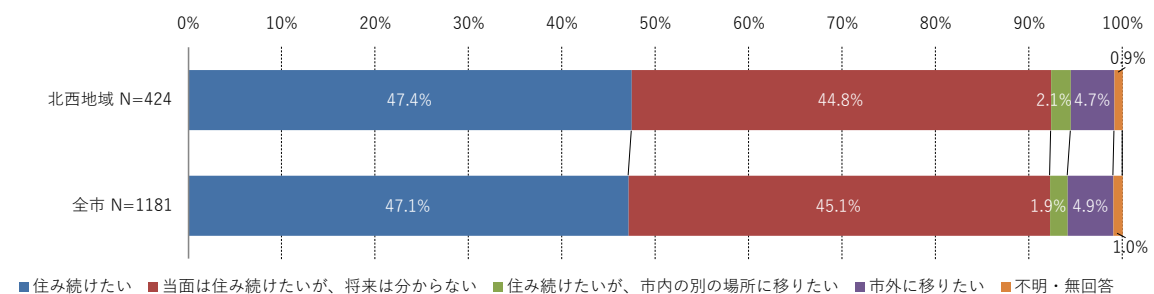


図 地域の定住意向

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

イ まちの暮らしの満足度

- ・北西地域は、概ね全市と同様の傾向にありますが、全体的に満足度が高い傾向にあります。
- ・特に日常の買い物の便利さや鉄道の利用しやすさ、歴史文化資源の親しみやすさに関する満足度は高いですが、道路、公園やレクリエーション施設、大規模災害に対する安全性については満足度が低くなっています。

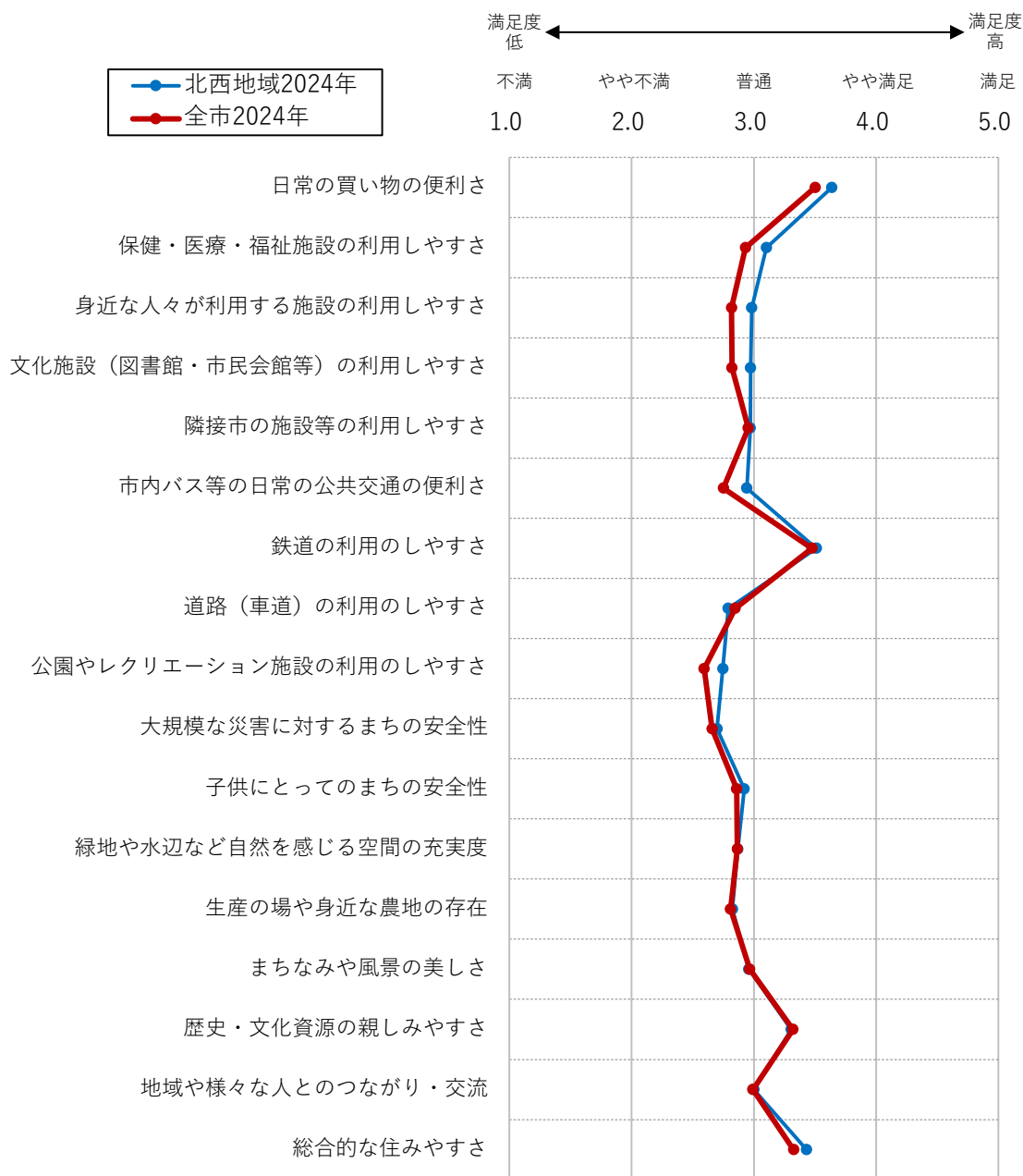


図 まちの暮らしの満足度

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

ウ 身近な住環境で生じている課題

- ・避難場所や避難経路の十分な確保への不安を挙げた人が45.8%と最も多くなっています。
- ・次いで高齢化によってまちの活力が弱まっていること（44.6%）、段差や傾斜のきつさ、道路幅の狭さなどによる道路や歩道の歩きにくさ（43.4%）、の順にあげる人が多くなっています。

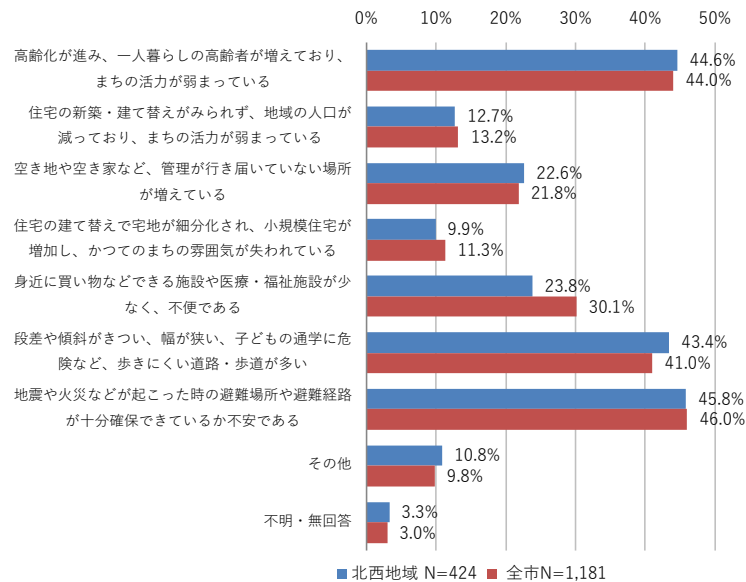


図 身近な住環境で生じている課題

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

エ 概ね10年後をイメージした将来の姿

- ・日常の暮らしや移動の利便性のよさを挙げた人が多く、全市と比べても多くなっています。

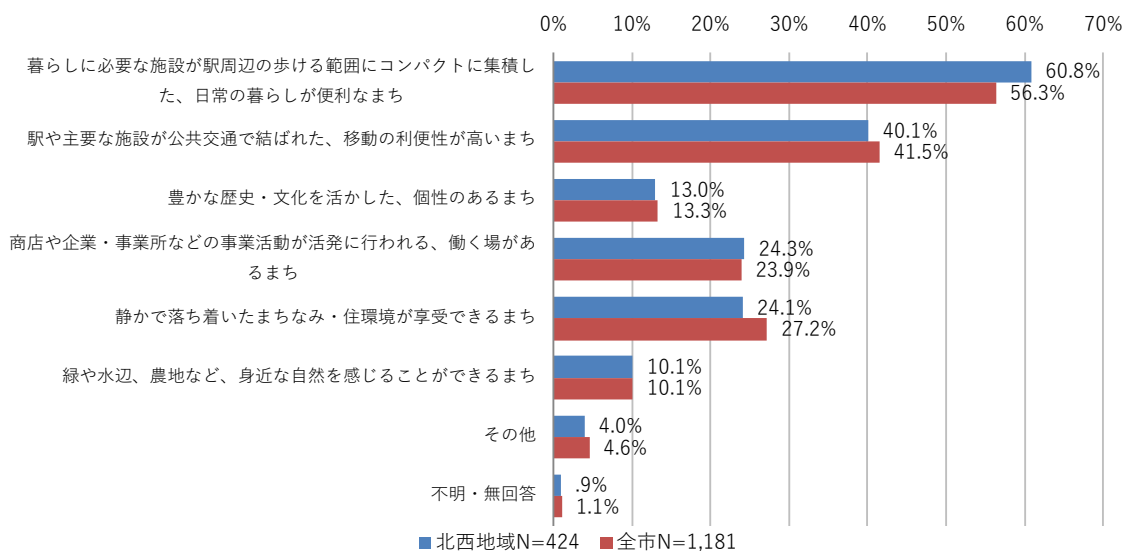


図 概ね10年後をイメージした将来の姿

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

オ 魅力に感じているところ

- ・周辺地域へのアクセスの利便性のよさを挙げた人が多く、全市と比べても多くなっています。

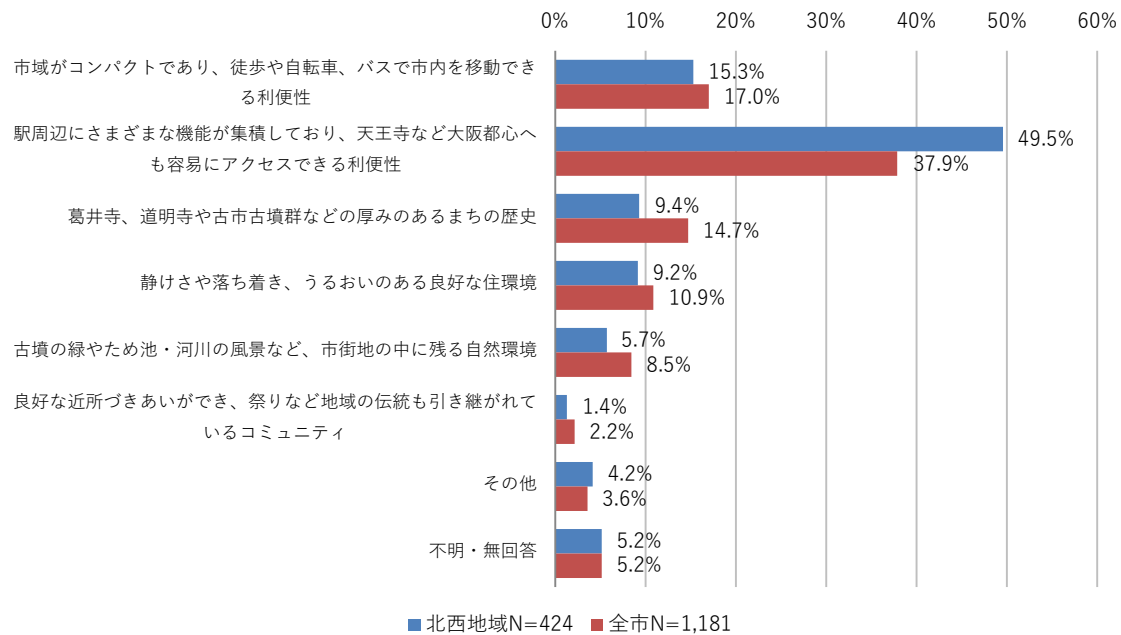


図 魅力に感じているところ

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

【まちづくりに活かしていきたい資源】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

<人>

適度で良好な近所付き合い / 子どもの通学時の見守り運動 / 高齢者を見守る環境 / 清掃・美化活動

<もの>

古墳（城山古墳、古室山古墳） / 川や緑などの自然 / 神社仏閣（葛井寺、辛國神社等） / 歴史的な街並み

<こと>

お祭り / 運動会や自治会が開催するイベント / 清掃活動 / ボランティア

【地域で「気持ちが良い」「ほっとする」ような場所】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

・津堂城山古墳（古墳・公園・花壇・周辺のウォーキングコースなど）

・葛井寺

・大和川（川・河川敷・堤防・遊歩道・サイクリングロードなど）

・辛國神社

・駅の周辺 等

【参考】 住民意向の変化について（主なもの）

（※平成27（2015）年アンケート調査と、令和6（2024）年アンケート調査の比較）

○地域の定住意向

・「住み続けたい」「当面は済み続けたい」という意見が増えています。これは全市も同じ傾向にあります。

○身近な住環境で生じている課題

・高齢化に伴うまちの活力減退などを問題視する意見が増えました。

・道路・歩道の問題、避難場所など防災対策について問題視する意見も増えました。

・身近な買い物や医療・福祉施設の利便性については問題視する意見が減りました。

○地域の将来の姿

・大きな変化はなく、「日常の暮らしが便利なまち」や「移動の利便性が高いまち」を望む意見が多くありました。

(2) 地域の課題

①狭あい道路が多く住宅地内の通過交通も多いため危険箇所の改善と、府道堺大和高田線における渋滞対策が必要です

- ・街道や昔からの集落の道路が分布しており、狭あい道路が多く、また南北方向の通過交通も多いため、歩行者の安全確保が重要な問題となっています。
- ・時間帯を区切った通行規制や、危険箇所の点検を地域や行政が協力して行っているものの、学校付近の通学路などの安全対策、危険箇所の改善が課題となっています。
- ・大規模商業施設が完成し、さらにその他の生活利便施設の集積も進むことで、府道堺大和高田線から迂回路として生活道路に自動車が流入することも懸念されます。また、府道堺大和高田線の交通量の増加に伴い、府道や周辺道路、踏切などで渋滞が発生することも懸念されます。

②子どもたちが集い遊べる公園等のさらなる充実が必要です

- ・地域内に公園が点在するほか、小学校での校庭開放等に取り組んでいるものの、利用者ニーズを十分に満たしているとは言えません。
- ・津堂城山古墳やふじみ緑地などが存在しており、これらもうまく活用しながら、子どもたちが集い遊べる公園等のさらなる充実を進めていく必要があります。

③藤井寺駅北側の魅力や回遊性の向上が必要です

- ・藤井寺駅北側では基盤整備が終了し、まちの顔としての空間整備がなされました。今後は、大規模商業施設をはじめとした民間事業者、まちづくり協議会等が主体となって、藤井寺駅北線を軸とした魅力ある空間づくりや、歩いて楽しめるまちづくりが必要です。

④地域の豊かな歴史を認知してもらい、まちづくりに活かしていくことが必要です

- ・古市古墳群で最古の大型前方後円墳で散策もできる市民憩いの場である津堂城山古墳、善光寺、長尾街道の往時の面影を今に伝えるまちなみなど、豊かな歴史を感じられる場所が多くあり、そうした歴史文化資源を地域住民に十分に周知していく必要があります。
- ・地域内には古い民家等が点在しているものの、それらが一体のものとして体感できるよう、人の流れを創っていく必要があります。商店街も含めた回遊性の向上も課題となっています。
- ・地域に存在する歴史文化の価値を共有し、地域の特徴としてまちづくりに活かしていくことが必要です。

⑤大井水みらいセンターや大水川散策公園、大和川沿いの一体的な魅力の発信が必要です

- ・大和川に接しており、大阪府の大井水みらいセンター周辺は桜の名所として親しまれているほか、大水川散策公園など市民に人気の場所が点在していますが、これら自然を感じられる空間を一体的に楽しめる魅力を発信していく必要があります。

⑥（都）八尾富田林線の整備に伴い、沿道のまちづくりの推進が必要です

- ・津堂・小山地区では、地権者組合による土地区画整理事業が進んでおり、この取組の促進と良好な市街地形成の誘導が必要です。
- ・その他の沿道地区では、地域への様々な影響を勘案しつつ、良好な市街地形成について検討が必要です。

（３）まちづくりの将来像

**子どもも大人も元気で安全・安心・快適に暮らせるまち
歴史や自然をつなげて活かすまち**

北西地域では、藤井寺駅北側の都市基盤整備と大規模商業施設の整備が進められ、都市機能の充実が図られました。また、津堂城山古墳と連携する形でふじみ緑地の整備を行ったほか、（都）八尾富田林線の整備推進とそれに併せた津堂・小山地区での土地区画整理事業の事業化や沿道地区でのまちづくりの検討に取り組んでいます。

こうした都市整備が進展する一方で、地域の広いエリアでは車両交通が多く危険な箇所や狭い道路が存在するほか、公園が住民のニーズを十分に満たしているとは言えない、オープンスペースが活用されていないなど、特に子どもたちが安心して遊べる環境づくりには課題が残されています。一方で、学校が多い地域であることから、学校の施設開放等の取組により、地域の魅力向上につながる期待もあります。

このため、住民目線で安心して遊べる場所づくりや危険箇所の改善など、子どもも大人も元気で、安全・安心に暮らせる環境を創り、将来も子どもたちがこのまちにいたいと思うようなまちをめざします。

また、津堂城山古墳や長尾街道、善光寺などの歴史文化資源、大和川や大井水みらいセンター、大水川散策公園（翠花堤苑、彩花堤苑）などの自然を感じられる空間もあります。

こうした歴史や自然、オープンスペースをつなげて保全・活用するとともに、津堂・小山地区や（都）八尾富田林線沿道での良好な市街地の形成や、住民等の活動を通じた新たな機能の導入により、快適に暮らせるまちをめざします。

(4) まちづくりの方針

①自動車と歩行者が共存した安全・安心なまちづくり

- ・地域内の生活道路において、自動車の通過交通は抑制しつつ、危険箇所の改善などに地域と行政が協働・共創で取り組みながら、歩行者や自転車に安全・安心に通行できるような環境整備を進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・道路における危険箇所については、カーブミラーや街灯の設置、道路改良などによる安全対策に取り組めます。 ・災害時の避難や緊急車両の通行確保のため、主たる生活道路における狭あい部分の解消に取り組めます。	・地域内の危険箇所についての点検や意見交換を行います。 ・通過交通に対する対策について地域住民と協議を進めます。 ・道路整備に係る住民との対話・協議の場を設け、道路整備プロセスの透明化を図ります。 ・交通安全、防災、災害応急対策の観点から、狭あい道路の解消に向け地域とともに取り組みます。	・交通ルールの遵守や意識啓発に取り組みましょう。 ・道路の危険箇所を共有するマップ等を作成しましょう。

②公園を含めた古墳や緑地など身近なオープンスペースを充実させるまちづくり

- ・古墳や緑地など身近なオープンスペースが、子どもも大人も親しみやすい空間となるように、整備や活用のあり方を検討します。

行政主体	協働・共創	市民主体
・公園・緑地や身近なオープンスペースを活かして、子どもも大人も親しみやすい空間づくりに取り組みます。	・地区内のオープンスペースのあり方を周辺住民とともに話し合います。	・公園・緑地等を積極的に活用しましょう。 ・公園利用や古墳散策のマナーを遵守しましょう。

③藤井寺駅北側の訪れたい魅力を高めるまちづくり

- ・民間事業者、まちづくり協議会等が連携しながら、藤井寺駅北側で歩いて楽しめる、訪れたい魅力をもつまちづくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・商店街やまちづくり協議会など地域の主体的な活動、取組を積極的に支援します。 ・駅周辺のまちの顔としての景観形成、誘導等に取り組めます。 ・立地適正化計画に基づき生活利便施設等の誘導・集積を図ります。	・沿道の魅力ある景観づくりの方向性や、回遊性の向上のあり方などを関係者とともに話し合います。	・店舗の軒先での演出など、商店主や民間事業者が景観形成を意識した取組を進めましょう。 ・駅周辺の空間等も活用し、魅力を発信するイベント等を実施しましょう。

④地域の歴史を活かした回遊できるまちづくり

- ・津堂城山古墳や善光寺など、地域内に点在する歴史文化資源等を結び、地域の歴史の厚みや豊かさを魅力として発信できるようなまちづくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・古墳周辺の歴史文化に配慮した都市づくりを進めます。 ・歴史文化資源を回遊できるルートのカラー舗装やサイン整備等に取り組めます。	・藤井寺駅周辺を起点に地域の歴史文化資源や商店街を楽しく回遊できる取組を検討します。 ・地域内を回遊するための移動手段のあり方について検討します。	・住民一人ひとりが身近な歴史文化の存在を意識するように心がけましょう。 ・地域の歴史文化を知るための学習や、歴史文化資源を活かした活動に取り組めましょう。 ・新築や建て替えの際などに歴史文化を意識しましょう。

⑤大井水みらいセンター周辺のオープンスペースを活かした魅力あるまちづくり

- ・大和川沿いから大井水みらいセンターを魅力ある空間にすべく、歩行者空間のネットワーク化を検討するとともに、住民による維持管理活動に取り組めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・大井水みらいセンター及び大井水みらいセンターを核とする歩行者空間のネットワーク化を検討します。	・魅力ある空間としての使い方や発信方法について話し合います。	・住民による河川空間の維持管理活動に取り組めましょう。

⑥（都）八尾富田林線沿道のまちづくり

- ・（都）八尾富田林線の整備に併せて、土地活用ポテンシャルの向上が見込まれる沿道地区について、産業機能や生活利便機能等の立地や都市基盤の整備を誘導し、利便性の高い良好なまちづくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・津堂・小山地区の土地区画整理事業による市街地形成を誘導します。 ・土地区画整理事業に併せて市街化区域への編入に取り組めます。 ・（都）八尾富田林線の沿道において、現状の土地利用を考慮しつつ、将来のまちづくりのあり方及びそれに適した土地利用誘導の方策について検討します。	・津堂・小山地区において良好な市街地形成について協議・調整します。 ・沿道地区のまちづくりのあり方について検討します。	・津堂・小山地区において組合が主体となって土地区画整理事業を推進しましょう。 ・無秩序な土地利用や乱雑な景観にならないよう留意しましょう。

北西地域－方針図

<その他、地域全体に関すること>

- ◎災害に備えた安全、安心なまちづくりの推進
- ◎地域の特性に応じたみどりの保全、創出
- ◎農地の保全 など

- ◎津堂城山古墳を中心とした歴史・文化に配慮した都市づくり
- ◎津堂城山古墳・ふじみ緑地における子どもが使いやすい環境整備

- ◎市街化調整区域の土地利用の検討（土地区画整理事業の促進による市街化の誘導、それ以外の区域での農地の保全）

- ◎（都）八尾富田林線の早期整備に向けた働きかけ

- ◎（都）八尾富田林線の整備とあわせて沿道のまちづくりの検討

- ◎内水被害対策に向けた整備の推進（西水路雨水幹線）

- ◎特に通過交通の多い路線として安全・安心な道づくりの検討

- ◎（都）堺大和高田線の整備の要望
- ◎大規模集客施設の影響を見据えた道路整備の要望

- ◎まちの顔として整った景観形成、回遊性の向上

- ◎藤井寺駅北側の大規模商業施設や高等学校、商店街による商業集積を活かした魅力あるまちづくり

- ◎大井水みらいセンターと大井川散策公園のうらおいある空間づくりの検討

公共施設	歴史・自然資源
● 市役所	■ 古墳
● 図書館	■ 公園・緑地
● 公立公民館	■ 都市計画公園・都市計画緑地
● 集会施設・ホール・体育館等	■ 運動場等
	■ 古墳・社寺敷地
	○ 神社仏閣等
	 ワーキングルート（参考）
学校	土地利用
● 小学校	■ 低層住宅専用ゾーン
● 中学校	■ 中低層住宅専用ゾーン
● 高等学校	■ 一般住宅ゾーン
● 特別支援学校	■ 住・商複合ゾーン
	■ 沿道サービスゾーン
	■ 商業・業務ゾーン
	■ 産業ゾーン
	■ 住工共生ゾーン
	■ 田園・都市共生ゾーン
幼稚園・保育所・認定こども園	
● 幼稚園	
● 保育所	
● 認定こども園	



2. 北東地域

(1) 地域の概況

北東地域は、市域を近鉄南大阪線と国道 170 号（大阪外環状線）で区切り、周囲は柏原市と八尾市に接する地域です。

地域の南端に土師ノ里駅が位置し国道 170 号（大阪外環状線及び旧道）の沿道に商業施設等が立地し、地域内には市民総合体育館、青少年運動広場も整備されています。

東高野街道が南北に通る、旧石器時代から中世に至る国府遺跡や、允恭天皇陵古墳の他、伴林氏神社などの歴史文化資源も点在しています。

また、梅が園町の街区の整った戸建て住宅地が立地するほか、地域内に事業所も点在しています。



土師ノ里駅



市民総合体育館



伴林氏神社（ともばやしのうじのじんじゃ）
出典：市資料



住宅地と農地

①人口・世帯数の推移

- ・人口は令和 2（2020）年まで減少傾向ですが、世帯数は近年増加しており、核家族化が進行していると考えられます。
- ・人口の推移は、全市と比較して令和 2（2020）年までの人口減少は顕著ですが、概して全市と同様の動態が見られます。
- ・年齢別の人口構成については、全市平均とほぼ同様の割合となっています。

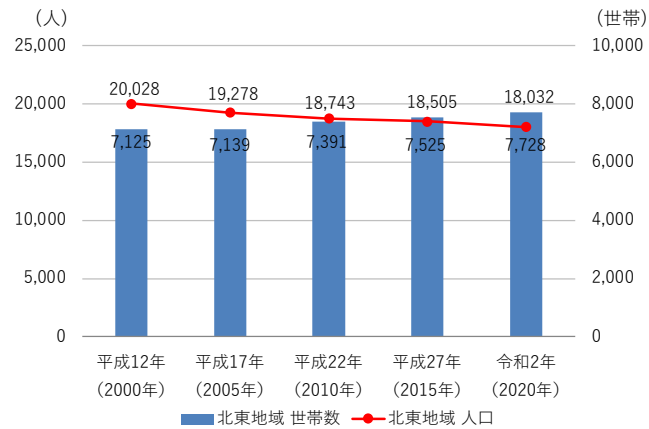


図 人口・世帯数の推移 出典：国勢調査

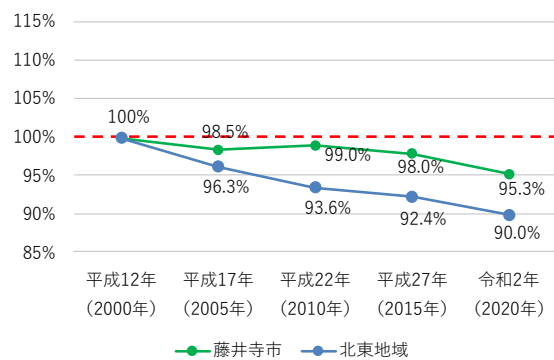


図 人口の推移（全市との比較） 出典：国勢調査

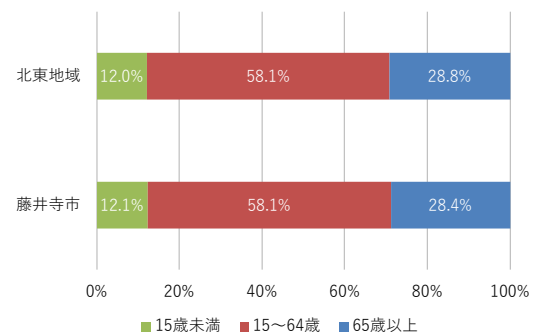


図 年齢別人口構成（令和 2（2020）年） 出典：国勢調査

注：年齢不詳を省いているため合計が 100%にならない

ア 地域の定住意向

- ・住み続けたい、当面は住み続けたいが将来は分からないという人は合わせて 90.9%となっているが、住み続けたいという人の割合（43.0%）は全市の中でも最も小さい割合となっています。

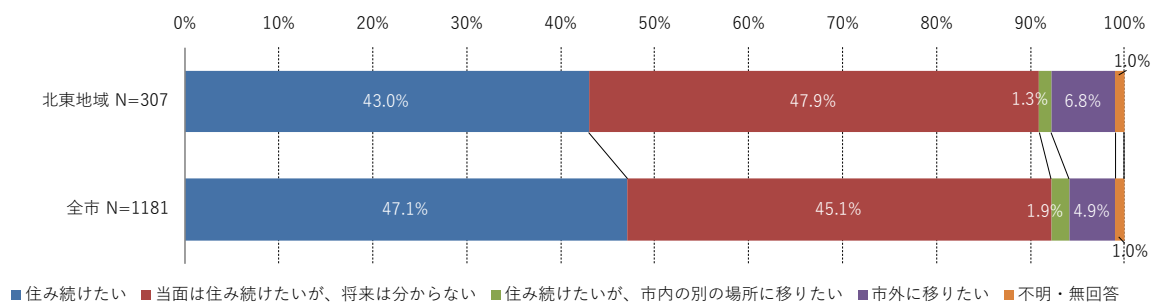


図 地域の定住意向

イ まちの暮らしの満足度

- ・北東地域は、概ね全市と同様の傾向にありますが、全体的に満足度がやや低い傾向にあります。
- ・日常の買い物の便利さ、鉄道の利用しやすさ、歴史文化資源の親しみやすさに関する満足度は高いですが、保健・医療・福祉施設、身近な利用施設、バス等の日常の公共交通の便利さについては満足度が低くなっています。また、大規模災害に対する安全性についても満足度が低くなっています。

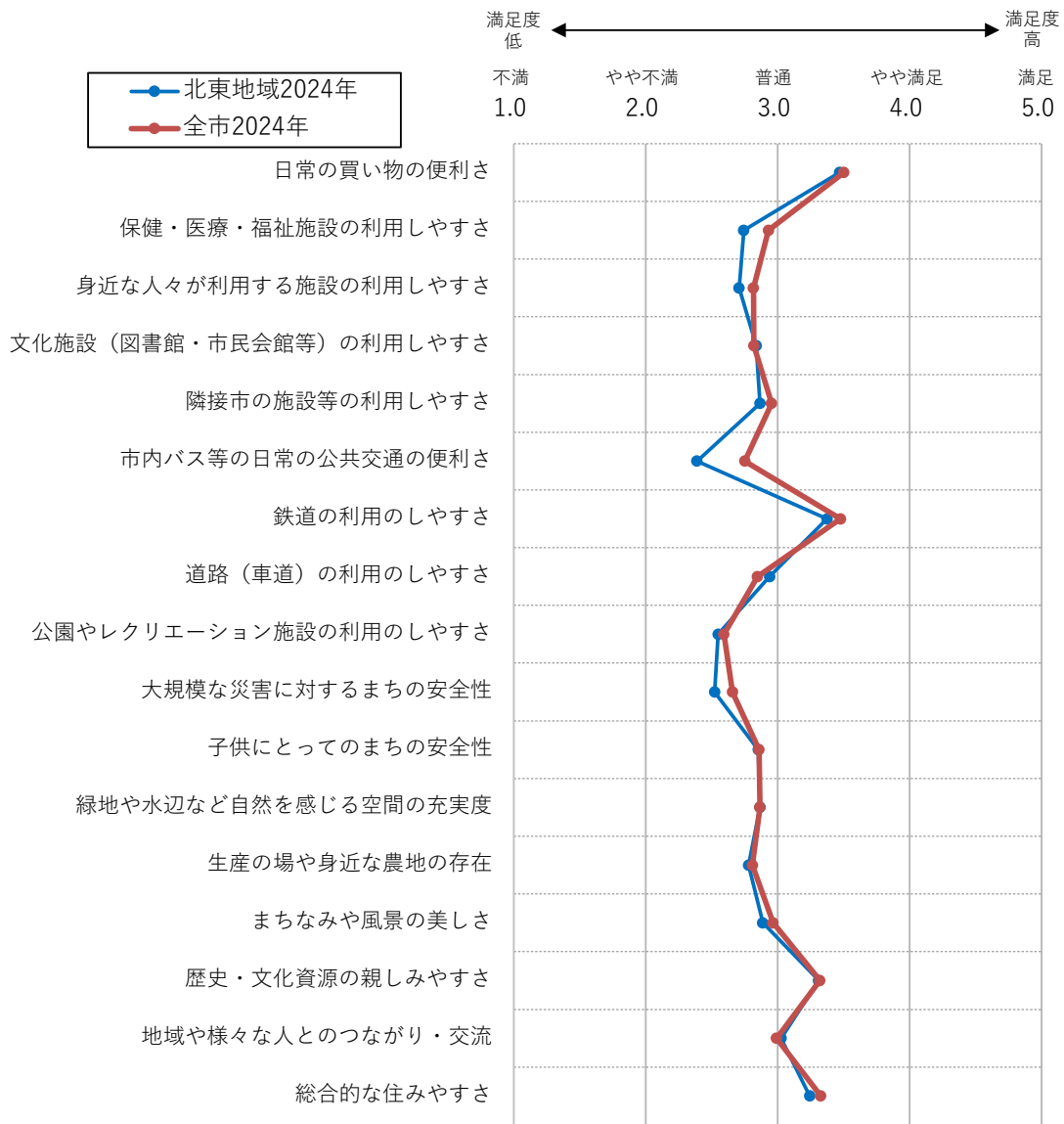


図 まちの暮らしの満足度

ウ 身近な住環境で生じている課題

- ・高齢化によるまちの活力の弱まり（40.1%）、段差や傾斜のきつさ、道路幅の狭さなどによる道路・歩道の歩きにくさ（41.7%）、避難場所や避難経路の十分な確保への不安（51.1%）が多くなっています。
- ・人口の減少によるまちの活力の弱まりについて挙げた人の割合は全市で最も小さくなっています。

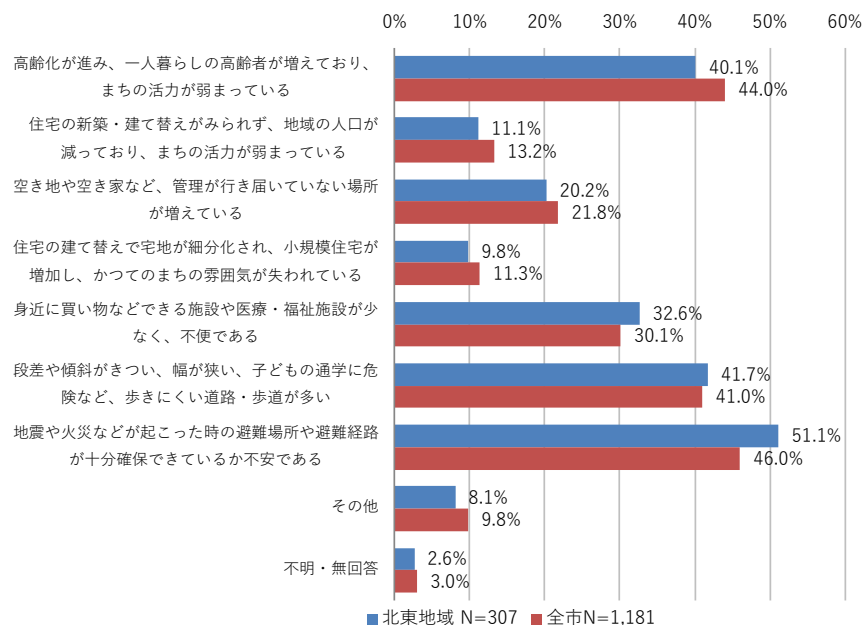


図 身近な住環境で生じている課題

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

エ 概ね10年後をイメージした将来の姿

- ・日常の暮らしや移動の利便性のよさを挙げた人が多く、特に移動の利便性は全市と比べても多くなっています。

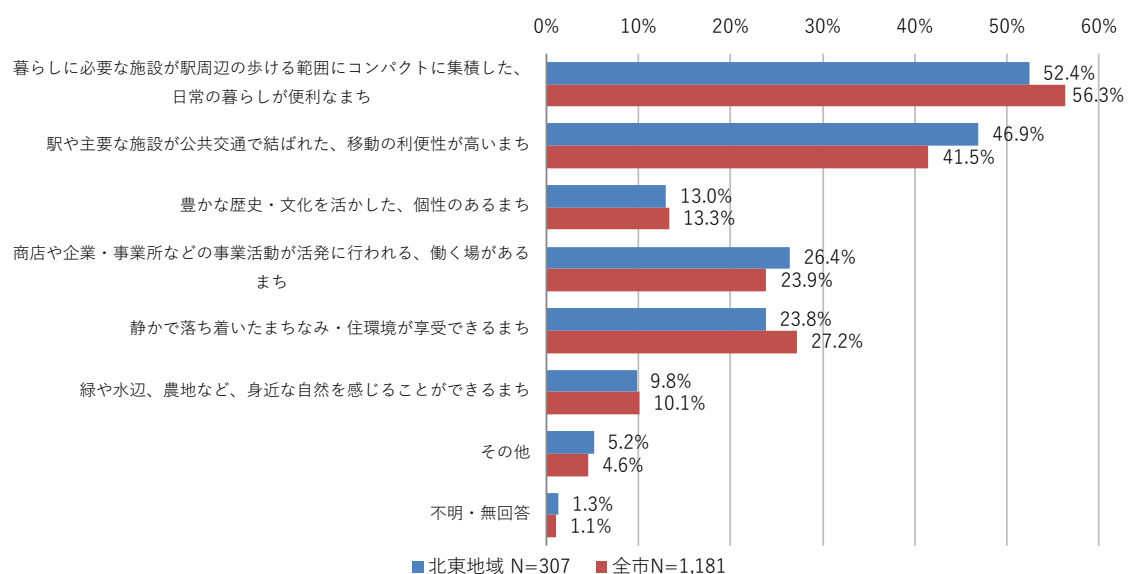


図 概ね10年後をイメージした将来の姿

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

オ 魅力に感じているところ

- ・周辺地域へのアクセスの利便性のよさを挙げた人が多くなっていますが、全市と比べると少なくなっています。

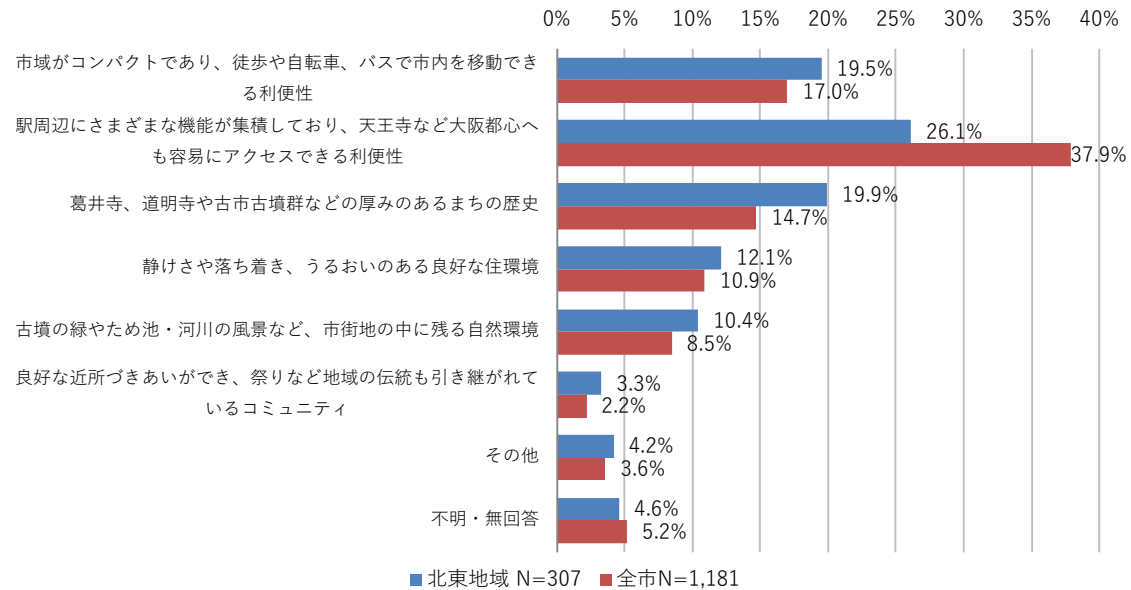


図 魅力に感じているところ

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

【まちづくりに活かしていきたい資源】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

<人>

通学時の見守り活動／挨拶や声かけなど良好な近所付き合い

<もの>

古墳／神社仏閣／緑や自然が多いこと

<こと>

祭り（だんじり・神社でのお祭り）／清掃活動／子どもからお年寄りまでの交流

【地域で「気持ちが良い」「ほっとする」ような場所】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

- ・石川（河川敷・サイクルロード）
- ・大和川（河川敷・堤防・土手）
- ・大水川（川・下水処理場・桜並木）
- ・道明寺 等

【参考】 住民意向の変化について（主なもの）

（※平成27（2015）年アンケート調査と、令和6（2024）年アンケート調査の比較）

○地域の定住意向

- ・「住み続けたい」「当面は済み続けたい」という意見が増えています。これは全市も同じ傾向にあります。

○身近な住環境で生じている課題

- ・高齢化に伴うまちの活力減退などを問題視する意見が増えました。
- ・道路・歩道の問題、避難場所など防災対策について問題視する意見も増えました。

○地域の将来の姿

- ・「日常の暮らしが便利なまち」や「移動の利便性が高いまち」を望む意見が多くありました。
- ・「歴史文化を活かした個性のあるまち」を求める意見は減少しました。

(2) 地域の課題

①道路が狭いため移動や緊急車両の通過が困難な部分があり、改善が必要です

- ・もともと農地であったところに散発的に住宅が開発された経緯があることから、道路や公園などのインフラが十分に整わず、特に狭い道路では緊急車両の通過が困難な箇所や、傾斜があるため移動が困難であったりする箇所も一部に見受けられます。
- ・すでに市街化されている中で抜本的な改善は難しいですが、危険な箇所や人の集まる場所等を中心に改善を検討する必要があります。

②子どもたちが安心して遊べる公園等の空間づくりや活用、河川や公園等の適切な維持・管理により魅力の向上を図ることが必要です

- ・地域内に公園が点在しているとともに、大和川や石川の河川敷といったオープンスペースもあり、小学校の校庭開放などの取組も行われていますが、それらを活かしつつ利用者のニーズに対応した魅力的な空間づくりや活用促進が必要です。
- ・大和川、石川に接しており、住民らによるクリーン活動にも取り組まれており、引き続き、河川や公園を地域の資源として、適切に維持・管理しながら、その魅力を活かしていく取組が求められます。

③地域の歴史文化資源を活かした取組が必要です

- ・国府遺跡や、允恭天皇陵古墳の他、伴林氏神社や東高野街道など、古墳や神社仏閣を中心とした歴史文化資源が点在するのが地域の特徴です。
- ・今後は、歴史文化資源の保全や価値の顕彰、それらを巡る回遊性の向上など、地域の資源を活かしたまちづくりの推進が必要です。

④駅周辺を中心に生活利便性や魅力の向上を図る必要があります

- ・古墳の案内表示等が整備されましたが、さらに駅周辺から歴史文化資源や周辺の店舗等へ回遊できるよう、生活利便性や魅力の向上を図る必要があります。

⑤公共施設の維持・活用の検討が必要です

- ・市民総合体育館や図書館などの公共施設が立地していますが、老朽化の課題を抱えており、今後のあり方について検討する必要があります。

⑥川北地区の市街化調整区域の土地利用のあり方の検討が必要です

- ・川北地区は、国道 170 号（大阪外環状線）沿いに位置することもあるため、農地だけでなく事業所や資材置き場等も混在しています。
- ・川北地区の北側で東西方向に走る（都）川北柏原線の整備事業が進められています。（都）川北柏原線の整備を契機に、土地利用のあり方やまちづくりの方向性について検討していく必要があります。

(3) まちづくりの将来像

**住環境の魅力を高め、安全・安心に暮らせるまち
地域の資源を魅力として歩いて楽しめるまち**

北東地域は、大和川と石川にも接する住居系の地域となっており、土師ノ里駅周辺や国道 170 号（大阪外環状線）沿道を中心に、住宅地の他に生活利便施設や事業所等も点在するまちとなっています。

この間、京樋雨水幹線の整備が完了したほか、（都）川北柏原線の事業化が進展するなど、都市基盤整備が進められています。しかしながら、道路や公園等が住民のニーズを十分に満たしているとは言えない、安全で安心して暮らせる環境整備が必要といった、主に住環境の向上についての課題が残る状況にあります。

住宅地としての魅力を高めていくためにも、地域内道路における危険箇所の改善や遊べる場所づくり、さらには身近な環境を住民で美しく保つ活動などを組み合わせながら、子どもや若者、そして大人が集い、いきいきと暮らせるまち、コミュニティのつながりを育むまちをめざします。

また、国府遺跡や、允恭天皇陵古墳の他、伴林氏神社や東高野街道などの歴史文化資源が点在していることから、地域の魅力としてうまくアピールし、河川沿いの自然豊かなオープンスペースなどとも連携して、歩いて楽しめるまちをめざします。

(4) まちづくりの方針

①歩行者が安全で安心して通行・移動できるまちづくり

- ・事故の多い箇所、通学路、交通量が多く危険な箇所を中心に、ベビーカー、車いす利用者も含めた歩行者が安全で安心して通行できる道路環境や移動手段の充実を進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・(都)北条大井線の整備について検討します。 ・国道170号(大阪外環状線及び旧道)の安全な道路環境づくりを要望します。 ・通学路や通行における危険箇所については、カーブミラーや街灯の設置、道路改良などによる安全対策に取り組みます。 ・災害時の避難や緊急車両の通行確保のため、主たる生活道路における狭あい部分の解消に取り組みます。 ・新たな交通システムの整備に取り組みます。	・地域内の危険箇所や避難路についての点検や意見交換、マップ等による周知などを行います。 ・通過交通に対する対策について地域住民と協議を進めます。 ・道路整備に係る住民との対話・協議の場を設け、道路整備プロセスの透明化を図ります。 ・交通安全、防災、災害応急対策の観点から、狭あい道路の解消に向け地域とともに取り組みます。 ・公共施設循環バスの改善方法を検討します。	・交通ルールの遵守や意識啓発に取り組みしましょう。

②公園を含めた河川空間、その他のオープンスペースを活用し、子どもが元気に遊べる空間づくりに向けた住民活動を促すまちづくり

- ・身近なオープンスペースが、子どもたちが集まり遊びやすい空間となるように、活用のあり方を検討します。
- ・住民が身近な公園、河川空間等の使い方について話し合いながら、美しく保ち魅力高めるための取組を協働・共創で進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・公園だけでなく子どもが安全に遊ぶことができる空間づくりに取り組みます。 ・子どもが遊べる空間の情報を発信します。 ・地域住民等が公園や河川等の管理に関わる仕組みを検討します。	・公園などを魅力的な場所として活用できる方法を検討します。 ・公園以外のオープンスペースの利用方法を検討します。	・公園や河川空間での清掃・美化活動を行いましょう。 ・子どもたちが安心して遊べるように大人による見守りなど地域でのサポート体制を検討しましょう。

③地域の歴史を活かした回遊できるまちづくり

- ・国府遺跡や、允恭天皇陵古墳の他、伴林氏神社や東高野街道などの歴史文化資源を歩いて楽しめるような環境整備を進めるとともに、地域の歴史文化に触れ、愛着を高められるようなまちづくりに取り組みます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・古墳周辺の歴史文化に配慮した都市づくりを進めます。 ・古墳など歴史文化資源をめぐるルートの整備に取り組みます。	・観光ボランティア等と行政とが一緒になって、歴史文化資源をめぐるルートや、歴史文化資源の活用について PR を行います。 ・地域内を回遊するための移動手段のあり方について検討します。	・住民一人ひとりが身近な歴史文化の存在を意識するように心がけましょう。 ・地域の歴史文化資源を知ってもらうための歴史の学習や、歴史文化資源を活かした市民活動を行いましょう。

④土師ノ里駅周辺を起点にした暮らしやすいまちづくり

- ・土師ノ里駅周辺を起点に、古墳の存在を身近に感じ、地域の拠点となるような店舗等の活用方策を検討しながら、地域の暮らしの魅力や利便性の向上につなげるまちづくりを進めます。

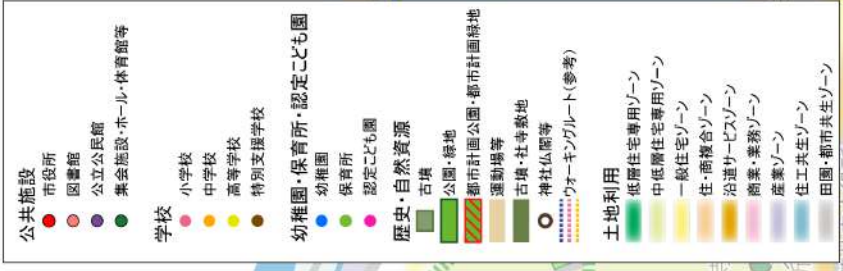
行政主体	協働・共創	市民主体
・来訪者を受け入れる環境整備のあり方を検討します。 ・立地適正化計画に基づき生活利便施設等の誘導・集積を図ります。	・駅前の古墳等を人が集まる空間、まちづくりに活用する方法を検討します。	・駅周辺での店舗等について、地域のにぎわい・交流拠点としての活用方策を検討しましょう。

⑤市民総合体育館周辺を拠点としたまちづくり

- ・市民総合体育館周辺をスポーツ、文化機能が集積する健康・文化拠点として位置づけ、地域の暮らしの魅力や利便性の向上につなげるまちづくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・市民総合体育館、図書館の機能維持に努め、将来的なあり方も踏まえながら、複合施設化の検討を進めます。	・市民総合体育館やその周辺の公共施設の維持に向けた整備のあり方について検討します。	・地域内のスポーツ、文化施設を積極的に活用しましょう。

北東地域－方針図



3. 南西地域

(1) 地域の概況

南西地域は、市域を近鉄南大阪線と国道 170 号（大阪外環状線）で区切り、周囲は羽曳野市に接している地域です。

藤井寺駅周辺には商業・業務施設等が集積しており、本市の都市拠点となっています。

地域内には、葛井寺や辛國神社など歴史のある神社仏閣、仲哀天皇陵古墳、鉢塚古墳、仁賢天皇陵古墳など歴史文化資源が数多く点在しています。また、象徴的な外観を持ったにぎわい・まなび交流館（アイセル シュラ ホール）も立地しています。

春日丘住宅地や藤ヶ丘住宅地など、ゆとりのある緑豊かな良好な住宅地が形成されていることも特徴です。

また、四天王寺大学方面への通学の最寄り駅ともなっていることから、学生が多く行き交う地域でもあります。



国道 170 号（大阪外環状線）



葛井寺



にぎわい・まなび交流館
(アイセル シュラ ホール)



藤ヶ丘住宅地
(正面は蕃所山古墳)

①人口・世帯数の推移

- ・人口・世帯数ともに、平成 12(2000)年～平成 17 (2005) 年まで減少傾向でしたが、それ以降は、人口は横ばい、世帯数は増加傾向が続いています。
- ・全市と比較すると、平成 17 (2005) 年までの人口減少は顕著ですが、概して全市と同様の動態が見られます。
- ・年齢別の人口構成については、全市に比べやや 15～64 歳の人口割合が低くなっています。

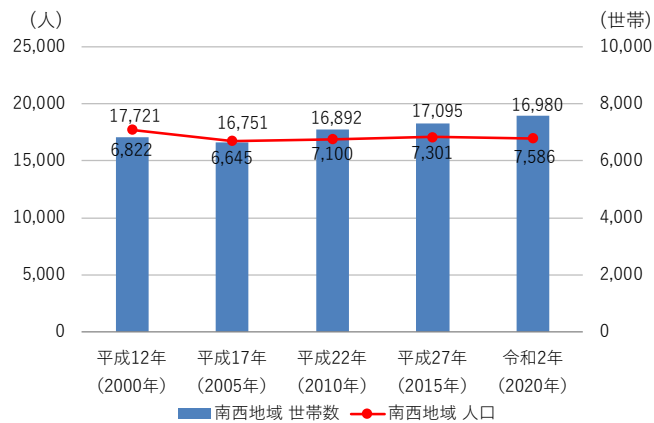


図 人口・世帯数の推移 出典：国勢調査

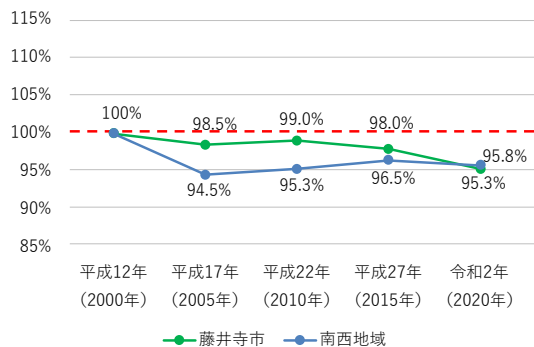


図 人口の推移(全市との比較) 出典：国勢調査

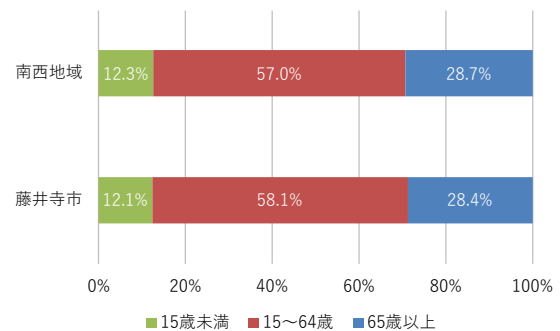


図 年齢別人口構成(令和2(2020)年) 出典：国勢調査

注：年齢不詳を省いているため合計が100%にならない

ア 地域の定住意向

- ・住み続けたいという人は51.5%で最も多く、全市と比較して最も大きくなっています。

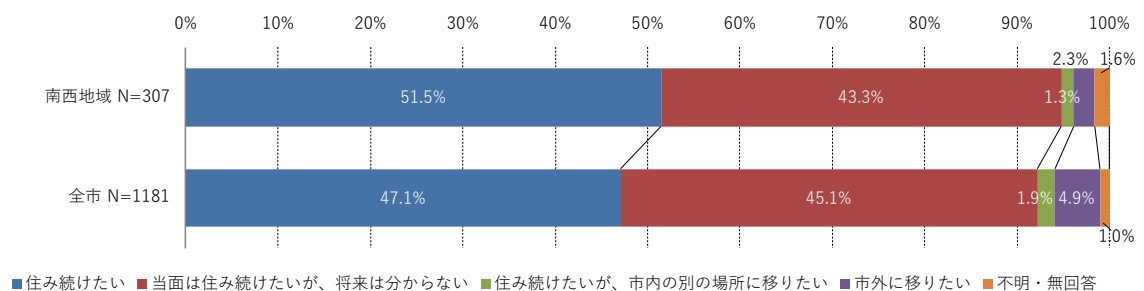


図 地域の定住意向

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査(令和5年度)

イ まちの暮らしの満足度

- ・南西地域は、概ね全市と同様の傾向にありますが、項目によって差異があります。
- ・日常の買い物の便利さや鉄道やバスの利用しやすさ、歴史文化資源の親しみやすさに関する満足度は高いですが、身近な利用施設、文化施設、公園やレクリエーション施設、緑地など自然を感じる空間については満足度が低くなっています。

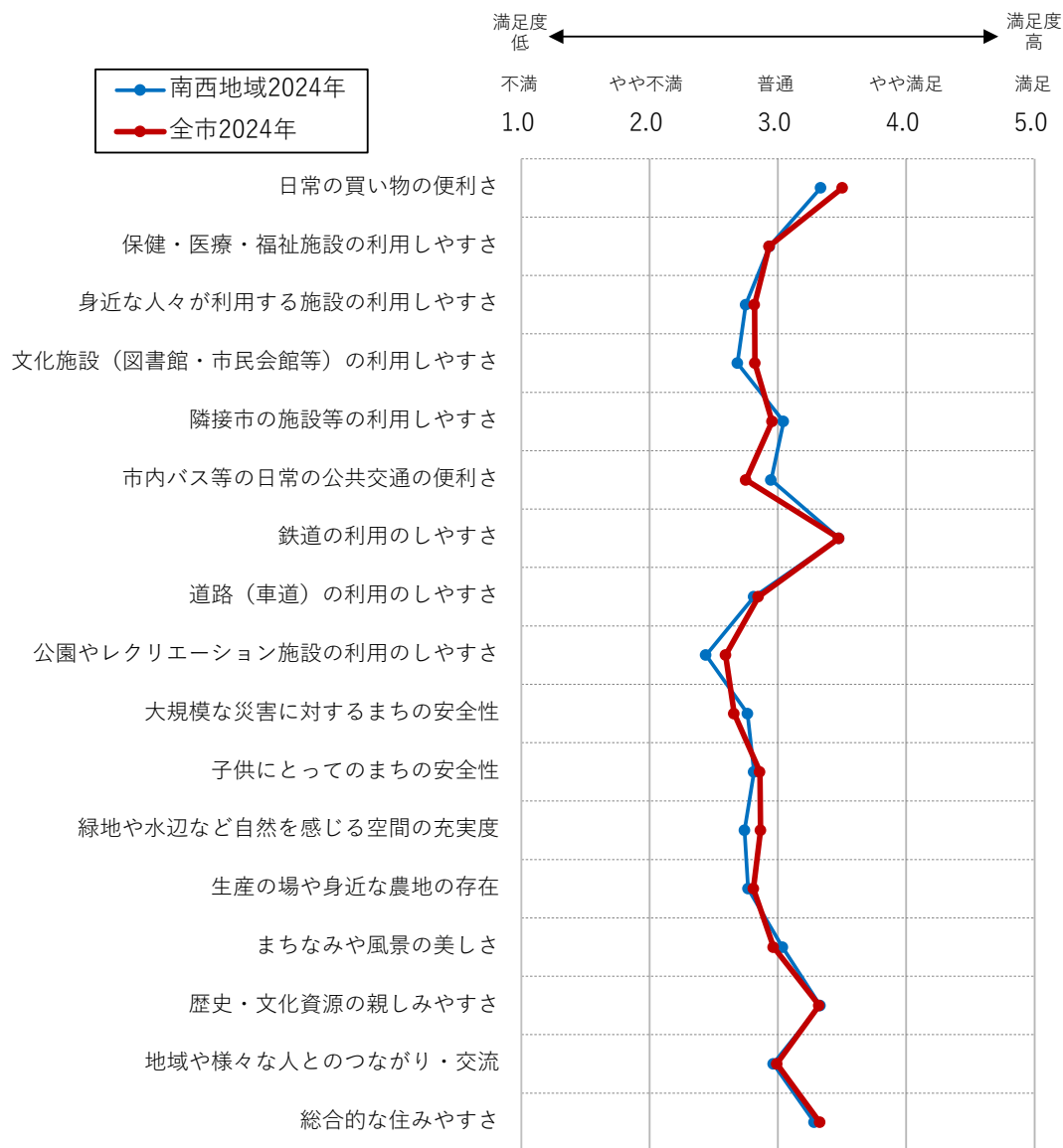


図 まちの暮らしの満足度

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

ウ 身近な住環境で生じている課題

- ・高齢化、一人暮らしの高齢者の増加によるまちの活力の弱まりを挙げた人の割合が最も大きく（48.5%）、次いで避難場所や避難経路への不安（42.7%）、段差や傾斜のきつさ、道路幅の狭さなどによる道路や歩道の歩きにくさ（38.1%）の順になっています。

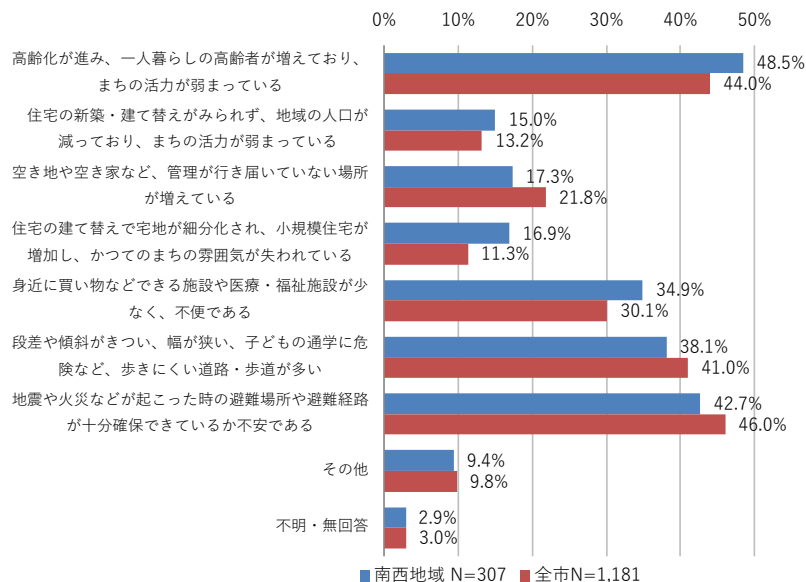


図 身近な住環境で生じている課題

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

エ 概ね10年後をイメージした将来の姿

- ・日常の暮らしや移動の利便性のよさを挙げた人が多なっています。
- ・全市と比較して静かで落ち着いたまちなみ・住環境を挙げた人は多くなっています。

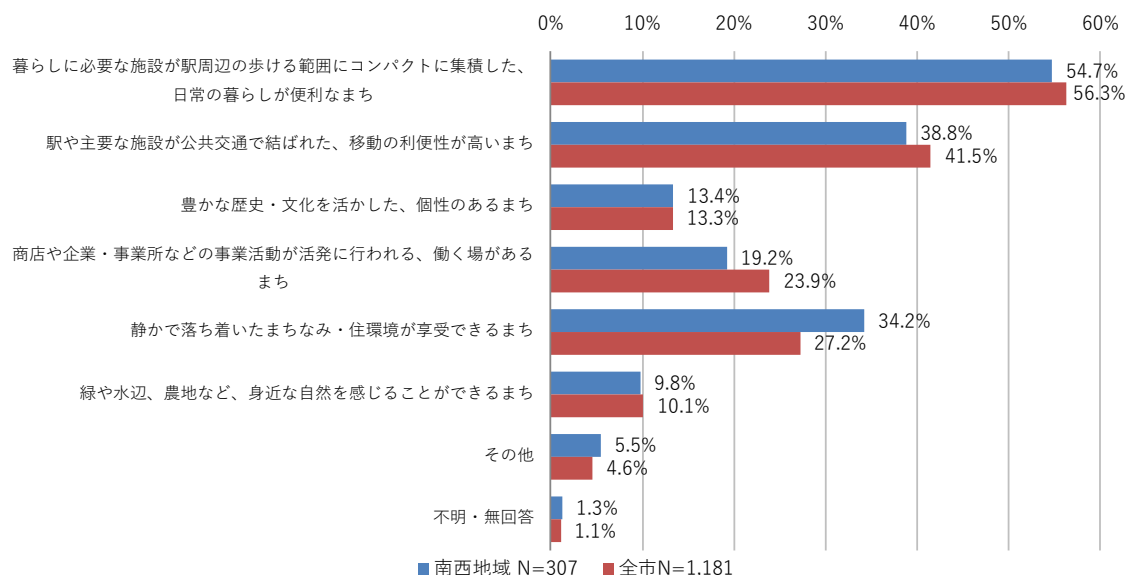


図 概ね10年後をイメージした将来の姿

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

オ 魅力に感じているところ

- ・周辺地域へのアクセスの利便性が最も多くなっていますが、全市と比較すると少なくなっています。

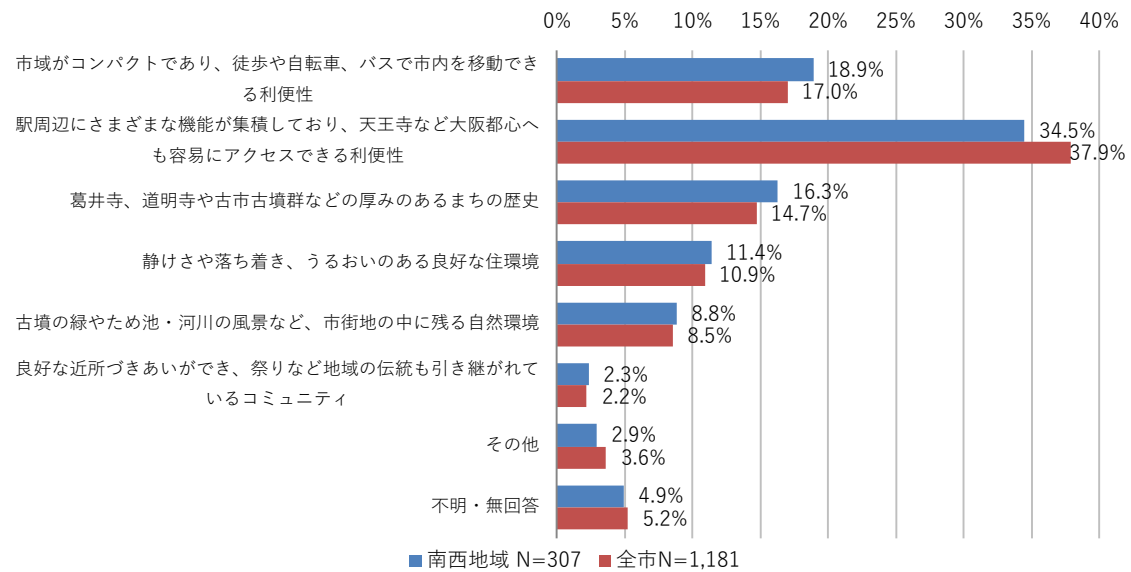


図 魅力に感じているところ

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

【まちづくりに活かしていきたい資源】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

<人>

子どもの通学時などの見守り隊やパトロール／声を掛け合える近所付き合い

<もの>

古墳やそれに付随する自然／神社仏閣（葛井寺・辛國神社）／アイセル シュラ ホール

<こと>

老若男女が参加して交流できるお祭り（だんじり祭り等）／清掃・美化活動

【地域で「気持ちが良い」「ほっとする」ような場所】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

・葛井寺

・辛國神社とその境内地

・アイセル シュラ ホール

・仲哀天皇陵古墳

・ブクンダ公園 等

【参考】 住民意向の変化について（主なもの）

（※平成27（2015）年アンケート調査と、令和6（2024）年アンケート調査の比較）

○地域の定住意向

- ・「住み続けたい」「当面は済み続けたい」という意見が増えています。これは全市も同じ傾向にあります。

○身近な住環境で生じている課題

- ・高齢化に伴うまちの活力減退などを問題視する意見が増えました。
- ・避難場所など防災対策について問題視する意見も増えました。
- ・身近な買い物や医療・福祉施設の利便性については問題視する意見が減りました。

○地域の将来の姿

- ・「日常の暮らしが便利なまち」や「移動の利便性が高いまち」を望む意見が多くありました。
- ・「歴史文化を活かした個性のあるまち」を求める意見は減少しました。
- ・「静かで落ち着いたまちなみ・住環境が享受できるまち」を求める意見は増えました。

(2) 地域の課題

①人々が訪れ賑わう拠点として藤井寺駅南側の魅力向上が必要です

- ・藤井寺駅周辺は本市の玄関口でもあり、駅南側は通勤・通学その他、葛井寺などを目的として本市を訪れる観光客も含めて、人が集い交流する場所として重要です。
- ・藤井寺駅北側への大規模商業施設等の立地に伴い人の流れが駅北側に偏ることで、駅南側の商店街などでは活気が失われることも懸念されます。
- ・駅南側の商店等が集積する魅力を一層高めることで、駅北側と差別化しながらも一体的な拠点形成を進めていくことが必要です。
- ・自動車や路線バス、タクシーが錯綜し、横断等が危険な状態であるなど、交通結節機能に課題を抱えており、対策を講じる必要があります。

②アイセル シュラ ホール付近の活用が必要です

- ・アイセル シュラ ホール内に生涯学習センターが設置され、アイセル シュラ ホールは観光・歴史文化の振興及び生涯学習の拠点としてリニューアルオープンしました。
- ・本市の「まちなか」にある世界遺産や貴重な文化財の魅力を市の内外にアピールし、地域の活性化につなげ、市民に親しまれる施設となるよう取組を進める必要があります。

③安全・安心・快適な道路空間の形成が必要です

- ・古くからの住宅地内は狭あい道路も多く、また通過交通も多いため歩行者空間の安全性向上が求められます。特に、学校付近や通学路での安全確保が必要となっています。
- ・災害時においては緊急車両が通行できない箇所なども多く、防災面から対応が必要です。
- ・一人ひとりが交通安全や防災対応を意識することで解決できることも少なくありません。
- ・ハード面とソフト面を組み合わせながら安全・安心・快適な道路空間の形成に取り組むことが必要です。

④良好な住宅地の環境保全に取り組むことが必要です

- ・計画的に整備され敷地規模の大きい住宅地において敷地の細分化などが進行し、かつての緑豊かな住環境が失われつつあります。
- ・住宅地の豊かな緑は、まち全体の質的向上にも大きく寄与することから、良好な住宅地の環境保全に取り組むことが必要です。

⑤地域の歴史文化資源を活かしたまちづくりが必要です

- ・春日丘など本市の住宅都市としての位置づけを高めてきた歴史的な住宅地、また葛井寺、辛國神社など歴史的風情を感じさせる歴史文化資源や数多くの古墳群など、本地域は暮らしの中に歴史文化を身近に感じることができるにも関わらず、そのポテンシャルを十分に発揮できていません。
- ・地域の歴史文化資源を活かしたまちづくりに積極的に取り組むことが必要です。

⑥子どもも大人も親しめる公園等のさらなる充実が必要です

- ・地域内に公園が点在するほか、小学校での校庭開放等に取り組んでいるものの、利用者ニーズを十分に満たしているとは言えません。
- ・地域には駅前エリアで利用の多いブクダ公園や、住民に親しまれているさくら公園が位置しており、子育て世帯が交流できる場所、子どもも大人も親しめる場所としての充実が求められます。

(3) まちづくりの将来像

歴史文化が育む、活力ある住宅学園都市のまち

南西地域には、葛井寺や辛國神社、仲哀天皇陵古墳、鉢塚古墳、仁賢天皇陵古墳など歴史文化資源が点在しています。また、ゆとりと品格のある良好な住宅地が形成されたことで、本市の都市“格”の向上やシビック・プライド※の醸成に寄与してきました。しかし、藤井寺駅南側では、駅前交通広場の整備や生活利便機能の充実などの課題を抱えています。

こうした中、藤井寺駅南地区において、葛井寺や辛國神社の参道にあたる道路の美装化整備や周辺建築物の景観整備などが進められ、生活環境の改善とともに、歴史文化資源等への来訪者の受け入れ環境の充実が図られました。併せてアイセル シュラ ホールの改修により、観光・歴史文化の振興及び生涯学習の拠点としての機能が高められました。

また、大阪緑涼高校をはじめ、藤井寺球場跡地に四天王寺学園が立地するなど学園都市とも呼べる教育環境が整っていることも、良好な住宅地の一端を担っていると言えます。

このような本地域が抱える多様な歴史文化資源や観光・教育環境を継承し活かすことで、魅力と活力ある住宅学園都市のまちをめざします。

※シビック・プライド：都市に対する市民の誇りや愛着のこと。

(4) まちづくりの方針

①藤井寺駅南の魅力を高めるまちづくり

- ・葛井寺や辛國神社など駅南の主要な歴史文化資源の価値や存在感を高めるまちづくりを進めます。
- ・駅前広場の整備をはじめとする、本市の玄関口にふさわしい駅前空間の環境整備を検討します。
- ・市民や商業者による歴史文化資源等を活かしたまちづくりを展開します。

行政主体	協働・共創	市民主体
・駅前の交通環境の改善に向けて、府と連携して駅前広場や道路の整備等について検討します。 ・ブクンダ公園を含めた駅南側の一体的な空間の活用を検討します。 ・商店街やまちづくり協議会など地域の主体的な活動、取組を積極的に支援します。 ・立地適正化計画に基づき生活利便施設等の誘導・集積を図ります。	・葛井寺参道の景観整備を活かしたまちづくりのあり方について検討します。	・市民主体の取組（ハロウィン、手づくり市等）を面に広げ回遊性を高めるなど、より効果的に展開しましょう。 ・空き店舗や空き地の有効活用を検討しましょう。

②アイセル シュラ ホールを拠点とした魅力を高めるまちづくり

- ・アイセル シュラ ホールや藤井寺南小学校、さくら公園などを核にした、子どもや住民、来訪者等が集まる、地域の魅力を高める空間づくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・循環バスの改善などアクセスしやすい環境改善に取り組めます。	・アイセル シュラ ホール周辺の活用方策などについて検討します。	・アイセル シュラ ホールを積極的に利用しましょう。

③安全・安心な道路環境づくり

- ・通学路の安全対策、通過交通の抑制などに資する道路環境整備を進めます。
- ・歩行者や自転車の通行環境の整備を進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・（都）藤井寺羽曳野線の交差点部の改良等を要望します。 ・通学路や通行における危険箇所については、カーブミラーや街灯の設置、道路改良などによる安全対策に取り組みます。 ・災害時の避難や緊急車両の通行確保のため、主たる生活道路における狭あい部分の解消に取り組みます。 ・古墳の回遊ルートと連携した安全で快適な歩行者空間の整備に取り組みます。	・地域内の危険箇所についての点検や意見交換を行います。 ・通過交通対策について地域住民と協議し進めます。 ・道路整備に係る住民との対話・協議の場を設け、道路整備プロセスの透明化を図ります。 ・交通安全、防災、災害応急対策の観点から、狭あい道路の解消に向け地域とともに取り組みます。	・交通ルールの遵守や意識啓発に取り組みましょう。 ・道路の危険箇所を共有するマップ等を作成しましょう。

④良好な住環境を守り、育てるまちづくり

- ・春日丘や藤ヶ丘など良好な戸建て住宅地等の環境を守り、育てるまちづくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・良好な住環境の維持・保全のための地域主体のルールづくり（敷地の細分化を防ぐ／緑の保全等）に対する支援を検討します。	・良好な住宅地の保全に向けた学習等に取り組みます。	・良好な住環境の維持・保全のための地域主体のルールづくり（地区計画など）を検討しましょう。

⑤歴史文化を活かした誇りを育むまちづくり

- ・歴史文化を意識したまちなみ整備等を進めます。

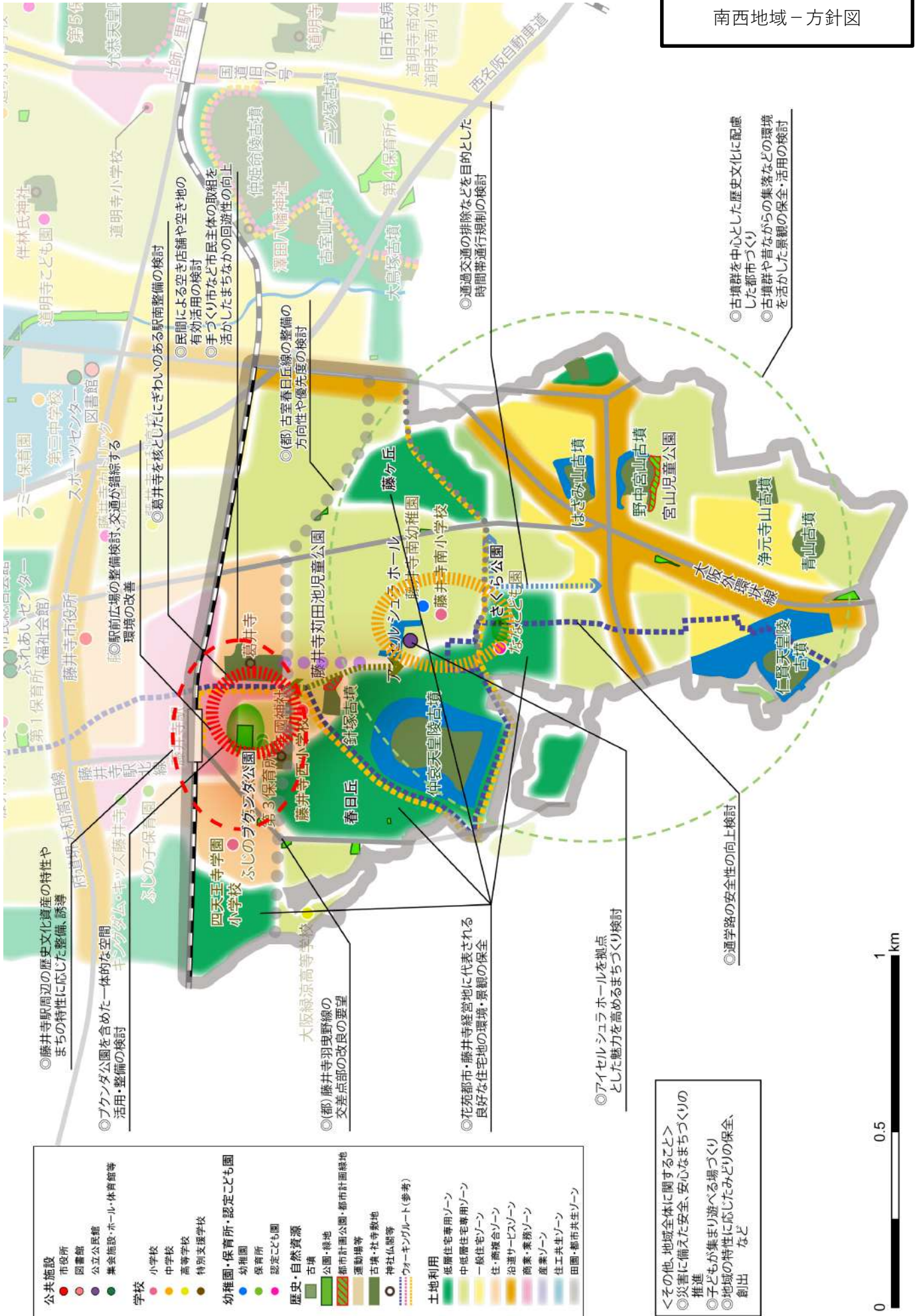
行政主体	協働・共創	市民主体
・古墳周辺の歴史文化に配慮した都市づくりを進めます。 ・駅から葛井寺、古墳へと回遊できるよう、安全性・快適性の向上について検討します。 ・通学路の安全性の向上を検討します。	・観光ボランティア等と行政とが一緒になって、歴史文化資源をめぐるルートや、歴史文化資源の活用について PR を行います。	・地域主体の古墳の保全や管理、活用のあり方について検討しましょう。 ・住民一人ひとりが身近な歴史文化の存在を意識するように心がけましょう。

⑥公園やオープンスペース等を活用した子どもが安心して元気に遊べるまちづくり

- ・既存の公園について、子どもたちが集まり安心して元気に遊べる場所となるようにさらなる利活用を検討します。
- ・あわせて、住民が身近な公園等の使い方について話し合いながら、積極的に活用していくための取組を進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・公園だけでなく子どもが安全に遊ぶことができる場所づくりに取り組みます。	・公園などを魅力的な場所として活用できる方法を検討します。 ・公園以外のオープンスペースの利用方法を検討します。	・身近な公園等の活用、清掃・美化活動に取り組みましょう。 ・子どもたちが安心して遊べるように大人による見守りなど地域でのサポート体制を検討しましょう。

南西地域－方針図



4. 南東地域

(1) 地域の概況

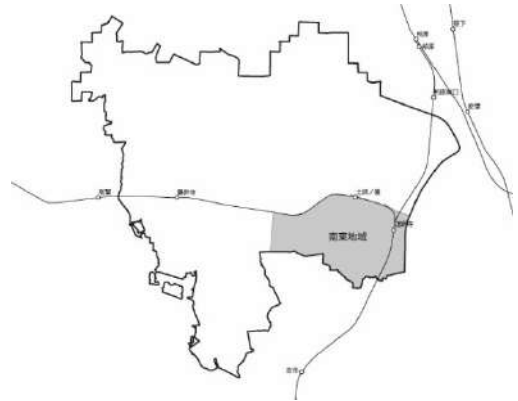
南東地域は、市域を近鉄南大阪線と国道170号(大阪外環状線)で区切り、周囲は羽曳野市と柏原市に接している地域です。

道明寺駅周辺には道明寺、道明寺天満宮が位置し、古くから発展してきた経緯があります。駅前には商店街が形成されており、近隣では、旧市民病院の跡地活用について検討を進めています。

東は石川河川公園に面し、大坂夏の陣 道明寺合戦まつりの舞台としても活用されるなど、貴重なオープンスペースとなっています。

コンパクトなまちの中に仲姫命陵古墳、古室山古墳、大鳥塚古墳などが連なって存在しており、特に古室山古墳は住民にとっての憩いの場となっています。道明寺、道明寺天満宮、澤田八幡神社などの神社仏閣も存在します。

道明寺天満宮周辺に古民家をリノベーションして開かれた飲食店等が見られ、イベントの開催等を行い、新たなにぎわい創出に寄与しています。



道明寺駅



古民家を改修した施設 (MONZEN)



石川河川公園



道明寺天満宮

①人口・世帯数の推移

- ・人口は平成 12（2000）年以降一貫して減少を続けています。世帯数は平成 17（2005）年～平成 22（2010）年にかけて微増した以降は横ばい傾向となっています。
- ・全市平均に比べ、南東地域においては人口の減少が顕著になっています。
- ・年齢別の人口構成については、全市に比べ、65 歳以上の人口割合が高く、15～64 歳の人口割合が低くなっています。

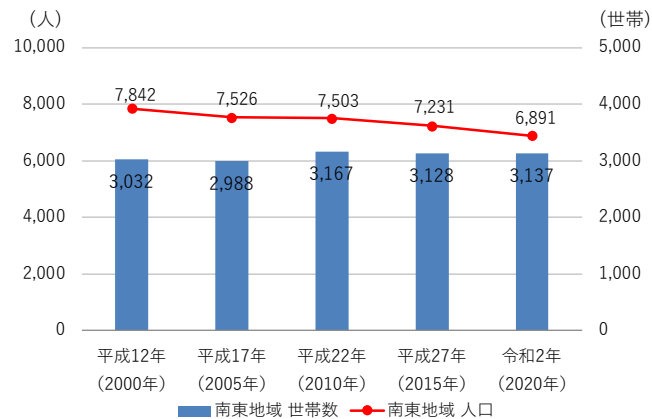


図 人口・世帯数の推移 出典：国勢調査

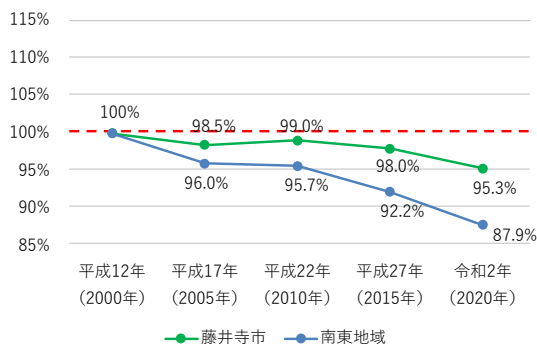


図 人口の推移（全市との比較） 出典：国勢調査

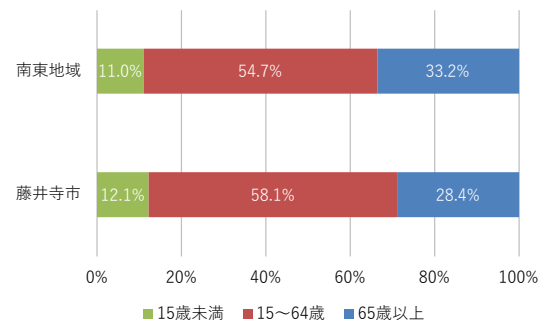


図 年齢別人口構成（令和 2（2020）年） 出典：国勢調査

注：年齢不詳を省いているため合計が 100%にならない

ア 地域の定住意向

- ・住み続けたいと答えた人の割合が最も大きく、50.0%となっています。しかし市内の別の場所に住みたい人の割合も最も大きくなっています。

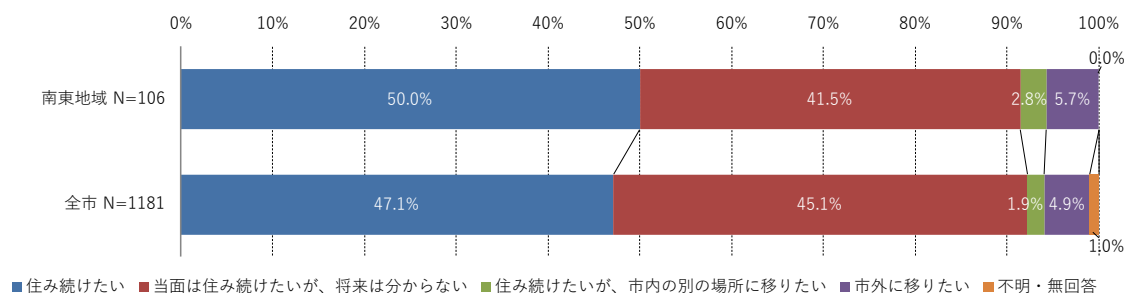


図 地域の定住意向

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和 5 年度）

イ まちの暮らしの満足度

- ・南東地域は、概ね全市と同様の傾向にありますが、項目によって差異があります。
- ・日常の買い物や鉄道の利用、緑地や水辺など自然を感じる空間、歴史文化資源に関しては満足度が高くなっていますが、保健・医療・福祉施設、身近な利用施設、文化施設、バス等の日常の公共交通、公園やレクリエーション施設、大規模災害に対する安全性については満足度が低くなっています。

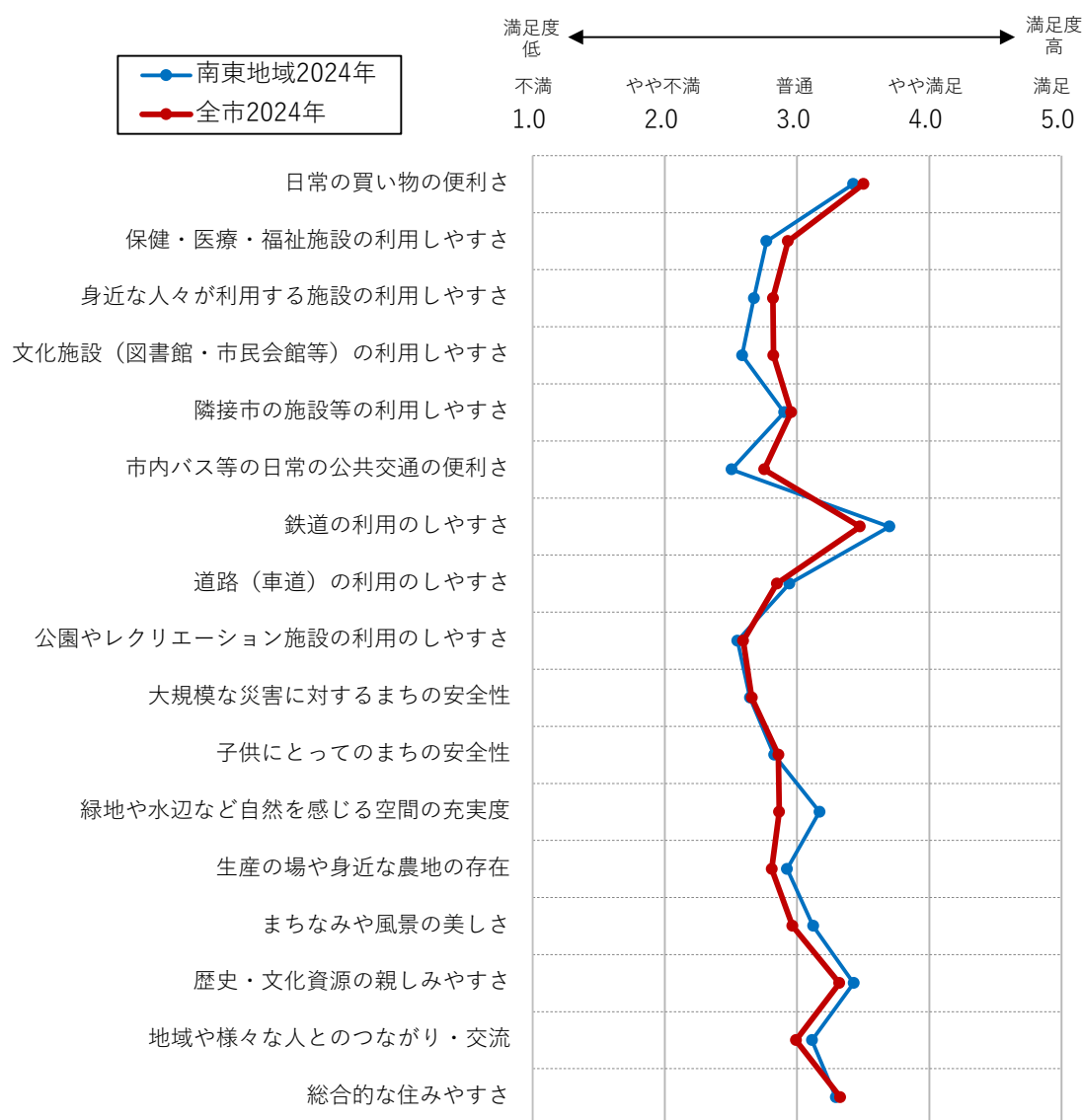


図 まちの暮らしの満足度

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

ウ 身近な住環境で生じている課題

- ・高齢化、一人暮らしの高齢者の増加によるまちの活力の弱まりを挙げた人が最も多く、全市より多くなっています。
- ・全市と比較して空き家や空き地の増加、医療・福祉施設等が少ないことを挙げた人が多くなっています。

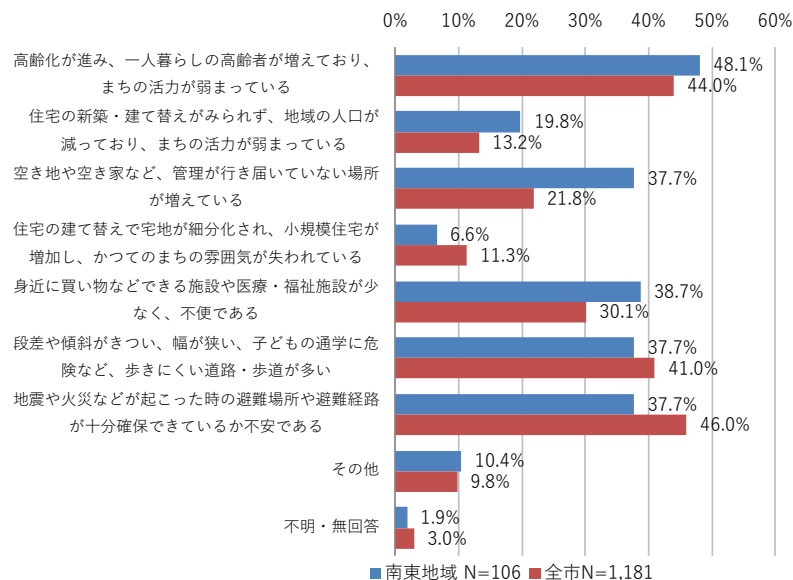


図 身近な住環境で生じている課題

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

エ 概ね10年後をイメージした将来の姿

- ・全市と同様に日常の暮らしの便利さを挙げる人が最も多くなっていますが、その割合は小さく、豊かな歴史文化を活かした個性のあるまちを挙げる人の割合が全市の中で最も大きくなっています。

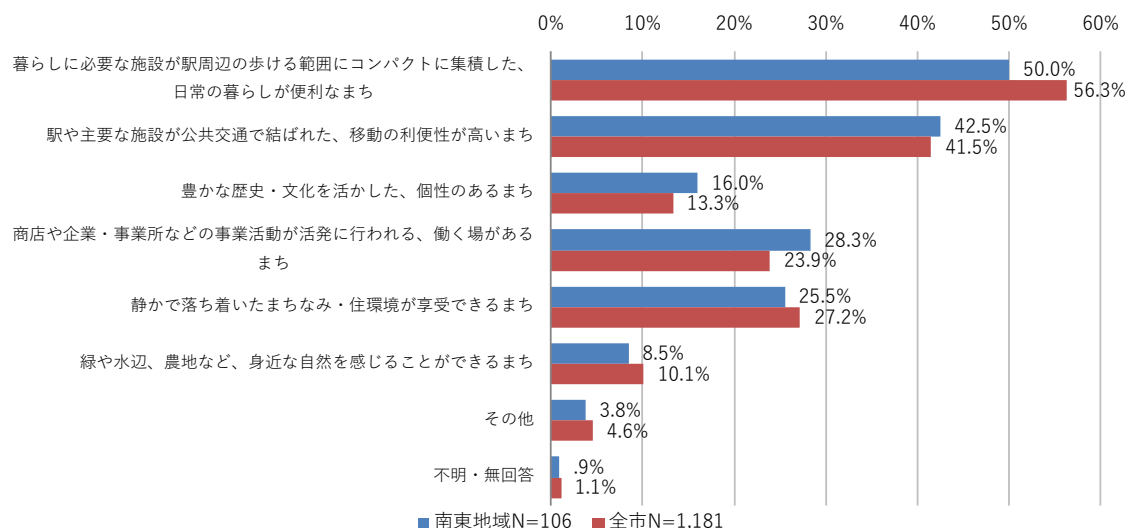


図 概ね10年後をイメージした将来の姿

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

オ 魅力に感じているところ

- ・周辺地域へのアクセスの利便性を挙げた人が最も多いですが、全市より低くなっています。

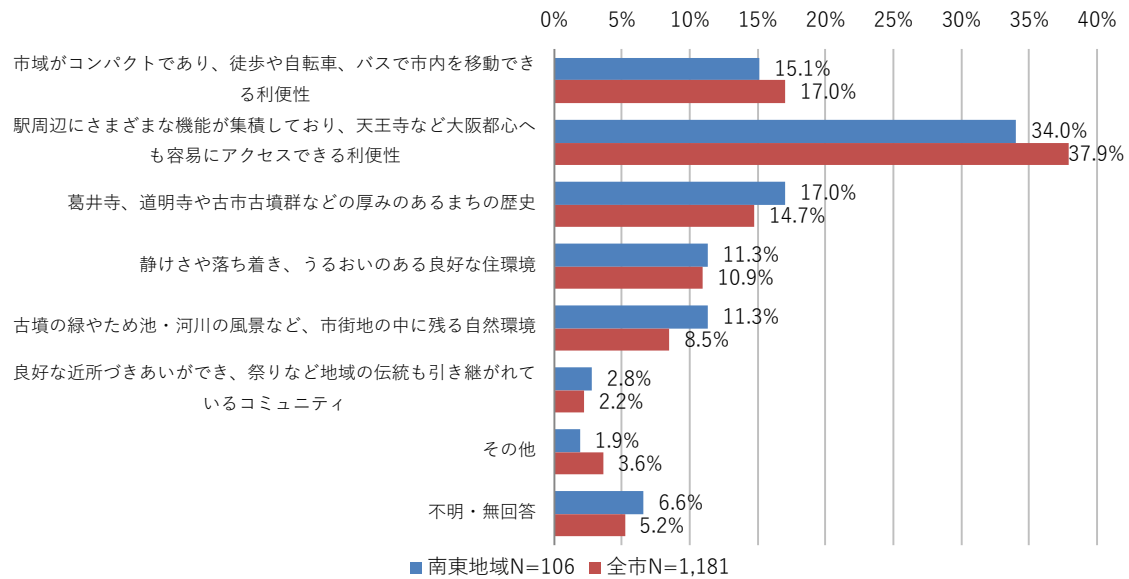


図 魅力に感じているところ

出典：都市計画マスタープラン改定に向けた市民意識調査（令和5年度）

【まちづくりに活かしていきたい資源】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

<人>

見守り運動 / 近所付き合い / まちの人みんながみまもっている安心感

<もの>

神社仏閣（道明寺、道明寺天満宮など） / 古墳とその自然

<こと>

祭り（だんじり・秋祭り） / 子ども会などのイベント 等

【地域で「気持ちが良い」「ほっとする」ような場所】 ※平成27（2015）年アンケート調査より

- ・石川（土手・堤防・河川敷公園）
- ・道明寺天満宮
- ・古室山古墳 等

【参考】 住民意向の変化について（主なもの）

（※平成27（2015）年アンケート調査と、令和6（2024）年アンケート調査の比較）

○地域の定住意向

- ・「住み続けたい」「当面は済み続けたい」という意見が増えています。これは全市も同じ傾向にあります。

○身近な住環境で生じている課題

- ・新築・建替が進まないことや空地・空き家の増加などを問題視する意見が増えました。
- ・身近な買い物や医療・福祉施設の不便のほか、道路・歩道の問題、避難場所など防災対策について問題視する意見が増えました。
- ・高齢化に伴うまちの活力減退などを問題視する意見は依然として高いものの相対的に減少しました。

○地域の将来の姿

- ・「日常の暮らしが便利なまち」や「移動の利便性が高いまち」を望む意見が多くありました。
- ・特に、「移動の利便性が高いまち」を求める意見が増えました。

（２）地域の課題

①駅周辺の魅力向上が必要です

- ・道明寺駅は本市東部の玄関口であり、交通の結節点としてだけでなく、観光客を受け入れる空間としても重要であり、歴史的な雰囲気を感じることでできる“おもてなし”の空間としての魅力を高めていくことが必要です。
- ・土師ノ里駅周辺については、公共空間だけでなく民間施設の改修なども含め、古墳などにつながる観光の玄関口として改善が進められていますが、住みやすさを高める観点からもさらなる充実が期待されます。
- ・旧市民病院の跡地活用について検討を進めています。

②商店街をより魅力的にしていけることが必要です

- ・道明寺駅前の商店街は、地域の生活利便性を支える商業・サービス機能の集積のみならず、観光客を道明寺・道明寺天満宮等へと導く重要なエリアとなっています。現在は、生活感の感じられるにぎわいや交流が見られますが、地域人口の減少や高齢化あるいは店舗の後継者不足等により将来的な活力低下が心配されます。
- ・観光上の主要な動線となっている商店街ですが、現状では観光客が休憩や買い物をする機会は乏しく、立ち止まり時間を過ごしてもらおうためのしかけづくり等が必要です。
- ・地域での住みやすさとともに住民と観光客の交流が促進されるよう、商店街や協議会を中心に多様な主体が連携することで、より魅力的な商店街づくりが必要です。

③地域全体で歴史文化を感じられるような取組が必要です

- ・古墳、道明寺、道明寺天満宮などの資源が多数見られ、古代からの重層的な歴史が当地区の特徴といえます。しかし、住宅の建て替えや改修、あるいは空き家の増加などにより、歴史的な深みを感じられる要素が無くなりつつあります。
- ・地域全体で歴史文化資源の保全・活用やこれらと調和した景観の形成など、歴史を感じられるまちづくりを進め住み心地を高めていく必要があります。
- ・地域の歴史文化性を内外に積極的に発信していくことも必要です。

④狭い道路や危険箇所への対応が必要です

- ・古くから形成された市街地であるがゆえに、狭い道路も多く存在しています。通過交通が少なく親しみある空間として地域の魅力となっている一方、自動車と歩行者の共存や緊急時の通行については課題を抱えています。
- ・特に、道明寺南小学校付近の通学路の交通安全や、踏切における渋滞、歩きにくい歩道などに問題があり、狭い道路や通行に危険な箇所等について改善を検討する必要があります。

⑤石川や古墳から連なるみどりや自然を楽しめるまちづくりが必要です

- ・地域内に公園が点在するほか、小学校での校庭開放等に取り組んでいるものの、利用者ニーズを十分に満たしているとは言えません。
- ・本市の貴重なオープンスペースである石川河川公園に加え、一連の古墳群、さらには道

明寺天満宮周辺の樹木が地域の自然豊かな印象を高めています。それらをさらに歩いて楽しむ、地域の魅力として発信していくための取組が求められています。

(3) まちづくりの将来像

重層的な歴史と商店街、みどり・水空間で “おもてなし”と“住みよい”が両立したまち

南東地域は、仲姫命陵古墳を中心とした連なりのある古墳群、道明寺や道明寺天満宮を中心とした門前のまちと商店街のにぎわい、さらには石川・大水川といった親水空間など、コンパクトな地域の中に重層的な歴史とうるおいある空間が詰まったまちです。

地域の拠点である道明寺駅周辺では、民間主導で空き家・空き店舗活用や賑わい創出のイベント等の取組が進められているほか、官民連携で、道路や商店街、景観形成等のあり方について検討が続けられています。また、旧市民病院跡地では地域の価値向上につながるような利活用について検討が進められています。

こうした取組を活かしながら、これらの重層的な歴史を地域全体に広げ、来訪者にも歩いて楽しんでもらえるまちづくりと、これらに加えてみどりや水空間を活用しながら住民の暮らしやすさや愛着を高めるまちづくりの共存が重要であり、歴史を中心とした観光・景観整備による「おもてなし」と、みどり・住環境による「住みよい」が両立したまちをめざします。

加えて、こうしたまちを支える都市基盤として、通過交通の改善や水害に強い減災のまちづくり等に取り組み、安全・安心なまちづくりを進めます。

(4) まちづくりの方針

①歴史を感じられる駅周辺のまちづくり

- ・市、地域、鉄道事業者等が連携し、歴史文化資源を巡る玄関口としてふさわしい駅周辺の空間づくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・駅周辺の都市整備のあり方を府と検討します。 ・道明寺天満宮の参道について、景観に配慮した道路整備等を進めます。 ・立地適正化計画に基づき生活利便施設等の誘導・集積を図ります。	・道明寺駅周辺整備基本構想を踏まえつつ、地域・事業者・市等が協力して歴史を活かしたまちづくりに取り組みます。	・駅周辺の美化や景観形成に取り組みましょう。 ・道明寺まち整備協議会を基本にまちづくりの検討や活動に取り組みましょう。

②もてなしのある魅力的な商店街のまちづくり

- ・商店街が主体となって、ゆっくりできる環境づくりや立ち寄りたくなるしかけづくりなど、来訪者をもてなす魅力的な商店街づくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・商店街やまちづくり協議会など地域の主体的な活動、取組を積極的に支援します。	・商店街と行政が協力したイベント等に取り組みます。	・来訪者を意識した休憩場所の確保や、空き店舗の活用など、商店街での取組を検討し、実践しましょう。 ・まちづくり協議会や商店主同士が連携してもてなしの商店街づくりに取り組みましょう。

③重層的な歴史が感じられるまちづくり

- ・古墳や神社仏閣、部分的に残る古いまちなみなどの豊富な歴史文化資源を活かし、古代から大坂の陣までの重層的な歴史が訪れて体感できるようなまちづくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・古墳周辺の歴史文化に配慮した都市づくりを進めます。 ・街道の魅力を向上させるための整備の方向性等を検討します。	・観光客の受け入れ対応について検討します。 ・地域内を回遊するための移動手段のあり方を検討します。	・住民一人ひとりが身近な歴史文化の存在を意識するように心がけましょう。 ・歴史に精通した地域の人材を発掘し、観光まちづくりに活かしましょう。 ・新築や建て替えの際などにも歴史文化を意識しましょう。

④安全・快適に歩けるまちづくり

- ・地区内の主要な道路において、通過交通の抑制や道路の危険箇所の改善などによる安全・快適な道路環境づくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・通学路や通行における危険箇所については、カーブミラーや街灯の設置、道路改良などによる安全対策に取り組みます。 ・災害時の避難や緊急車両の通行確保のため、主たる生活道路における狭あい部分の解消に取り組みます。 ・洪水、浸水に備えた避難施設や避難路等の整備や維持に取り組みます。	・地域内の危険箇所についての点検や意見交換を行います。 ・通過交通に対する対策について地域住民と協議を進めます。 ・道路整備に係る住民との対話・協議の場を設け、道路整備プロセスの透明化を図ります。 ・交通安全、防災、災害応急対策の観点から、狭あい道路の解消に向け地域とともに取り組みます。	・交通ルールの遵守や意識啓発に取り組みしましょう。 ・道路の危険箇所を共有するマップ等を作成しましょう。 ・地域で実施される避難訓練に積極的に参加しましょう。

⑤みどり・自然を活かしうるおいの感じられるまちづくり

- ・石川・大水川、古墳などがもたらすみどり・自然環境を活かし、うるおいの感じられるまちづくりを進めます。

行政主体	協働・共創	市民主体
・古墳に訪れやすいような整備を検討します。	・公園以外のオープンスペースの利用方法を検討します。	・古墳や社寺の清掃活動、軒下の花植えなどに地域で取り組みましょう。 ・河川空間を活用したイベント等に取り組ましましょう。

